

東京清陵会だより

第33号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=原 大 編集=89回生(昭和58年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオパラム

ひととはなにか

この混沌として複雑になった世界で
清陵同窓生として何ができるのか。
いまこそ「ひと」としての底力が問われている。

2022年度

東京清陵会定期総会のご案内



お申し込みはこちら

総会・イベント・懇親会はハイブリッド
(会場+オンライン併用)開催で準備中です

- 日時=2022年10月2日(日) 13:00~16:30
内容(予定) 同封のチラシをご参照ください。
・総会=13:00~13:20
・イベント=13:20~15:30(ミニ講演会・グループ討論会など)
・懇親会=15:30~16:30
- 開催場所(ハイブリッド)
・会場=アルカディア市ヶ谷
・オンライン=Zoom
- 会費懇親会参加費:8,000円
(107回生から118回生6,000円、119回生以降2,000円です)
※オンライン参加は無料

■申込方法

1. 同封のハガキにて申し込む
(メールアドレスは必ず明記してください)。
 2. メールにて申し込む(名前・回生を明記してください)。
tokyoseiry22@gmail.com
 3. 専用のエントリーフォームにて申し込む。
以下のURLにアクセスしてお申し込みください。
<https://forms.gle/3cabNuVwubHQgRjk6>
※メールアドレスは登録させていただき、同窓会からの連絡に
利用することがあります。ご了承ください。
- 参加申し込みの方には、当日の接続方法をメールにてご案内
いたします。(開催1週間前の送信を予定しております)
- 問い合わせ先=tokyoseiry22@gmail.com
当番幹事89回生 次年度幹事90回生
サブ幹事94・99・109・119回生 学生幹事123回生

●会場開催は、自治体(東京都)・会場の方針に沿った形といたしますので、開催の有無、形態は必ず東京清陵会のホームページで確認の上、
体調、ご家族や職場の意向など各自で判断して参加いただきますようお願いいたします。

巻頭特集

Part

1

ひととはなにか

混迷の時代を打ち破る「清陵」の生き方

世界はますます混迷の度を増している。新型コロナ禍にウクライナ危機が重なり、人々は数十年ぶりのインフレに身構える。これまで積み重ねた常識が通用しない時代の到来だ。先の読めない状況を突破するには、常識に流されない自由な発想が求められる。清陵時代に学んだ「自反而縮雖千萬人吾往矣」の発想が改めて大事になっている。意見が周囲と異なっても、自分が正しいと思うことに挑戦し続ける。これこそ、新しい道に踏み出すための基本行動となる。本特集では、清陵を卒業したゴタツ小僧・娘たちが、新たな道を切り開くために、ひととして何を考え、ひととしてどう歩んできたのか、その半生を語ってもらう。その一人ひとりの歩みの中に、今の混迷を突破するヒントを探ろう。

ひとは自分の意識一つで世界を変えられる



●小平陽子 (89回生)

Yoko KODAIRA

グラフィックデザイナー、
イラストレーター
(本会報表紙デザインも)

ホームページ



「ひととは自分の意識一つで世界を変えられる」。昨年は、私にとってこの言葉を実感できる1年となった。これまでの制作を振り返る2度の大きな個展を開くことができた。同窓会の幹事学年を迎えた年齢で大きな目標をかなえることができ、力添えをいただいた清陵人脈に大変感謝をしている。

絵本『諏訪の龍神さま』

個展で主軸となったのは、2020年に出版した絵本『諏訪の龍神さま』。絵本から喚起される世界観をインスタレーション展示し、お話をテーマとした朗読や演奏など複数のグループのパフォーマンスと共に楽しんでいただいた。

元は地域活性化から始まった絵本企画。図書館司書の傍ら児童文学に携わる河西

絵本ホームページ



美奈子 (93回生)さんと制作した諏訪の文化を伝える紙芝居が7作を超え、その実績から絵本の制作依頼をいただいた。最初は単なる子ども向け昔話の絵本を作るつもりが、彼女が掘り起こした文献が非常に興味深く、忠実に再話(構成)しただけではもったいないと、歴史マップ・年表も収録した。神道・仏教・諏訪学の専門家にも監修いただいた。諏訪の歴史や文化に共感してくれるのは、地元だけのものかと思いきや、県内外の様々な方々から反響やアプローチがあった。想像以上に増刷が続き、観光各所、諏訪大社でもこの2年で3000部以上販売していただいている。あらためて諏訪の信仰の歴史や信州の自然のポテンシャルに驚いている。

龍神様、水と風の神——諏訪の神の化身、これだけ多くの人の心に刺さる龍とは一体何なのか。いずれひとは土にかえり、水1粒に乗って空に上り、諏訪湖上空から山々を俯瞰し、静かに自然界をめぐり歴史を織りなす地域を見守る。龍という循環……。目を閉じてそんなイメージに漂いながら空間を創作した。

YouTube
イメージ動画



にある龍は互いにつながり、大きな龍へと育つ。歴史に翻弄されながらも、ひとのエネルギーの塊が激動の変化を

起こしてきたと捉えた。展示した大型のインスタレーション作品は、地元有線テレビ局で2022年度の御柱祭の中継スタジオ背景にも採用され、多くの人に見ていただく機会に恵まれた。

仮想空間に雄飛する龍神さま

リアルの場合での展示と同時に、ネット上の仮想空間で作品を展示する「メタバース」にもチャレンジした。諏訪をワーケーションに利用した慶應義塾大学のゼミに、この絵本を採用していただき「バーチャル三田キャンパス」に作品を展示することができた。

「メタバース」
展示の詳細



神話を描いた私のデジタル作品と仮想空間の親和性は高く、今後の可能性を感じる楽しい取り組みだった。NFT(偽造できない鑑定書付きのデジタルデータ)の普及など、今後のアートとデジタルを巡る進化にはこれからも大きな興味を持ち続けていきたい。

私は清陵を卒業後、東京芸術大学デザイン科へ進み、難関をくぐり抜けた仲間と出会った。そこではみんなが巧くて当たり前、ただ良い絵を巧い絵を描くだけでは全く意味がないと感じた。入学当時はスーパーリアリズムからサブカル的ヘタウマへの移行期で、どれだけ奇抜で個性的な新しいことを生み出せるのか、という要求を時代から突



2022年1月から岡谷で開催した「小平陽子展」の様子。右から2人目が小平さん、一番右が再話の河西美奈子(93回生)さん

きつけられた。清陵時代のエアブラシを駆使したイラストは封印した。しかし突飛なそれらしい事はできたとしても私には違和感があった。普通に絵を描いてもそれはアートではないと、悩んだ。いったい個性とは何だろう……。

長い間、答えは見つからなかったが、お客様のニーズに応えるデザイナーの仕事が楽しく、天職と感じるようになる。大学卒業後、東京の企業デザイナーとして勤務した。作家性を大切にしてくれる企業で手がけた商品がヒットしたため、フリー契約になり、家業を継いでくれた夫と故郷へ戻り自宅アトリエで子育てをしつつデザインワークや絵画レッスンをしてきた。

美術界でのキャリアや前衛的なアートシーンには興味を持たず、家族を優先しナチュラルに生きてきた。子育てや介護も大仕事であり、その傍らで仕事を続けることが自分のアイデンティティーとなった。そうするうち、諏訪でのデザイン依頼も増え、地元の様々なプロジェクトに関わることになり、絵本『諏訪の龍神さま』の出版につながった。地域活性化の流れが個展開催という成果に導いてくれた。

自分の個性とは何か

溢れかえる情報化の時代、いったい個性とは何だろう。

長いアートの歴史、その文脈の中に自分が漂っているのはほんの一瞬に過ぎないと気付くと、多くの美術家が前衛を語り、個性の主張合戦をしても、後から振り返ればそれは同時代性という無個性である。そこには自分の求めるものはなかった。そして今回の個展を通して気が付いた。アートの題材と

もなる「死生観」が諏訪の太古からの歴史に、私が求めていた視覚的に訴える普遍的な美しさは諏訪の自然にと、身近にあった。時代を超えて変わらないものの強さを実感した。

ひとは、日常の有り難みや価値に気が付きにくいものだ。

清陵時代に駆使したエアブラシが今はペンタブレットに変わったが、エアブラシに通じるどこかアナログなデジタル表現を再び模索するようになった。まだまだ学ぶことや試みたいことは多い。時代の変化は加速し、人々はその変化を問題視して嘆きがちだ。しかし私は、どんな変化の中でもひとは悪い方向には進んでいないと感じる。ひとは幸せになるために進化しているのだ。

知ることの楽しみが生む「中間者の役割」



河西美奈子(93回生)

Minako KASAI

岡谷南高校図書館司書、絵本『諏訪の龍神さま』文献研究・文章構成

2022年4月2日の上社山出しを皮切りに、諏訪では御柱祭が行われました。コロナ禍で地区の氏子に限定した形でしたが、「待ってました！」という喜びが感じられる温かい祭でした(21ページに関連記事)。

現在、私は岡谷南高校の図書館司書の仕事しながら、「諏訪の文化と自然を伝える紙芝居シリーズ」や絵本『諏訪の龍神さま』など、諏訪を伝える文章の作成をしています。

紙芝居の作成を始めたのは、前回の御柱が催された2016年でした。当時は諏訪市図書館に勤めていて、よく「御

柱について子供たちに話すのに良い本がありますか？」と聞かれました。御柱に関する貴重な資料や写真集は図書館に多くあるのに、子供向けの資料は博物館のパンフレット1冊くらいという現状でした。

図書館にある貴重な資料と、諏訪の文化を伝えたい方を結ぶものを、何か作れないだろうか……。語りやすい紙芝居の形がよいかもしれない。文章に絵をつけてくださることになったのが、同じ地区に住む89回生の小平陽子さんでした。イラスト作成やレイアウトをこころよく引き受けてくださり、事務方を同じく89回生の高橋(宮坂)栄子さんが担ってくださいました。文章構成を私が担当し、<スワンプロジェクト>が発足しました。身近な所で一緒に作品を作れる清陵の先輩や仲間の皆さんに出会えたことは、大変幸せなことだと感じています。

紙芝居制作に当たっては、子ども向けだからこそ、今分かっている事象をできるだけ正確に、分かりやすく伝えたいと考えました。知らないことが多いので、資料を探し、博物館の学芸員や神社の宮司など専門家の方々にお話を伺い、一から作り上げました。添付資料の使用許可を博物館などに一つひとつ取り、1年ほどかけて『諏訪の御柱祭』の紙芝居が完成しました。

「諏訪学」への関心

その後、「次は御渡りを」というリクエストから、八剱神社の宮司に話を伺い『御渡り』の紙芝居を作成しました。宮司の宮坂清さんの話が大変面白いので、それから<諏訪学><地域史><民俗学>という沼にはまったようです。『霧ヶ峰』『手なが足なが』『諏訪の殿さま』『八ヶ岳』といった紙芝居のシリーズを、長野県の元気づくり支援金を獲得して完成させました。地域の子育てをしている親たちが集まる小さな集団が、県の支援金を取得できたことは珍しいと思います。地域の言葉の難しさを、小平さんの素晴らしい絵がカバーしてくださっているおかげで、児童にも伝わるちょっと楽しい紙芝居になりました。

最近は何も知らないことを知る楽しさを、改めて感じています。紙芝居づくりの原点も、諏訪を知ることに楽しさがありました。自分の知識の欠如を思い知ったのは、清陵時代です。理科にまるで興味のなかった私を、流星観測に誘いだしたのが担任で地学教師の金子佳正先生でした。人間が天体を観測して数式を導き出し、そこから算出したその日その時間に、本当に流星が流れるという驚き。周囲の清陵生や天文気象部仲間の知識の豊富さに打ちのめされました。このままでは一角の人間になれない。自分の欠点を埋めるために大学を選び、理系への転進を試みましたが、結局専門家になることはできませんでしたが、生命科学分野で働いた回り道が、図書館司書になった今、生きているとも感じています。

何かをつなぐ仕事

紙芝居を作りながら、図書館司書の仕事とは、資料と人、専門家と一般の方、過去の知識と現在の見識、理系と文系といったものの中において、それらを<つなぐ>ことだと考えるようになりました。資料を知って、天秤のできるだけ真ん中を目指したい。そこに<中間者>としての自分の役割があるように思います。

図書館に入れば、0類から9類までに分類した、ありとあらゆる人間の知恵が配架はいかされている。一生かかっても、知識の果てを見ることはできないでしょう。日々の生活では互いの間にいろいろと問題が生じますが、人間の英知や文化というものは、やはり素晴らしいと感じます。

紙芝居や絵本のような私の短い文章では、諏訪の地域学の面白さの表層しか表現できません。が、作品を見た子どもたちが、諏訪に誇りを持ち、他地域に出ても諏訪へ帰ってきて「こんな場所だったのか」と思いだしてくれること。そして、地域学の楽しみへの入り口としてくれること、どの人にとっても故郷とは大切な場所なのだと考えてくれることを願っています。

リーマン、コロナに 直面しても諦めなかった



● 関 俊一郎 (89回生)

Shunichiro SEKI

株式会社ファンゴー 代表取締役

私が諏訪清陵高校を卒業して37年がたとうとしています。卒業後、「清陵魂」という言葉をたびたび耳にしてきました。卒業生のほとんどがこの「清陵魂」から湧き出るエネルギーのようなものを感じているのではないのでしょうか。振り返ってみると、「清陵魂」ともいえる何かがあって頑張り続けることができたような気がしてなりません。

私は高校卒業後しばらくして米国に渡り、カリフォルニアで6年間を過ごしました。英語学校、コミュニティーカレッジ、そして、目指していたカリフォルニア大学パークレー校で経済学の学位を取得して日本に帰りました。

2年ほどコンサルティング会社に勤務した後、カリフォルニア時代の食生活が日本で実現できないことにビジネスチャンスを感じ、起業を目指しました。



FUNGO本店

米国流サンドイッチ文化を 日本に

阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件のあった1995年、東京・世田谷区三宿でサンドイッチのお店、「ファンゴー」を開店しました。米国にあって日本になかったもの。軽食でない食事として

のサンドイッチ文化、ペットと入店できるお店、スターバックス コーヒーのようなカフェ、公園の目の前でテイクアウトできるスタイル。これらを兼ね備えたお店です。

実は大学卒業に際して就職活動をしている時に、米国で当時注目され始めたスターバックスを日本に持ち込むべく活動したものの失敗した経験があり、ファンゴーのドリンクメニューはスターバックスのものを参考にしました。オープンの初日から大ブレイクし、メディアにも多く取り上げられました。

しかし、その後は順風満帆とはいかず、波瀾万丈の10年を過ごすこととなります。おごりもあつたと思いますが、創業から数年の間に2号店、3号店と相次いで出店し、世の中の厳しさを知りました。「失われた10年」と言われた2000年代初め、小泉政権時代のITバブル崩壊と時を同じくして2店舗を閉め、ここからは上がるために苦しい数年を過ごしました。70kgあった体重は55kgまで落ち、今から考えると、よく生きていたな、と思えるくらい非人間的な生活をしていました。

しかし、諦めず耐え抜いて、2002年、新宿で起死回生となるダイニングレストランの開店に漕ぎ着けます。失敗が許されない状況で、自分の全てをつぎ込み、2年ほどで経営を復活の軌道に乗せることができました。

その状態で5年ほど耐え、2008年秋、東麻布にレストランを開店しました。しかし、オープン翌日のトップニュースがリーマン・ショックでした。この地域に多い外国人の来店を期待していたので、リーマン・ショックが起きたことは大きな誤算でした。

再び、忍耐の日々が続きましたが、2012年に新しい業態となるアップルパイショップ「グラニースミス」を三宿に開きます。米国時代に好きだったアップルパイがモデルでした。たった6坪の小さなお店でしたが、これが業界の常識を覆す大ヒットとなりました。月商で1坪あたり200万円の売り上げを記録し、TBSのビジネス情報番組「がちりマンデー」でも紹介されました。

その後は10年間で11店舗に育つ成長を遂げることになります。



グラニースミス青山店

コロナ禍に向き合う

今では、会社全体で15店舗を運営していますが、それでも順風満帆とはいきません。2年前には新型コロナウイルスの感染拡大に直面しました。2014年から銀座の商業ビルで営業していた大型レストランのキャンセルが2020年3月に1200人を超えました。売り上げは急減して、月300万円以上の賃料を払うことができなくなり、即座に閉店を決意しました。この銀座の店を含めてコロナ禍に4店舗を閉めることになりました。苦しいビジネス環境ですが、テイクアウト需要も大きいアップルパイ店は3店舗を新規オープンするなど、守りを固めつつも攻めの経営を忘れず、この苦境を乗り越えようとしています。

振り返ってみると、ここまで26年以上攻めの経営を続けられたのは、何よりも「諦めない気持ち」が大きかったと思います。何度も心が折れて、身体が壊れそうになったこともありました。しかしその都度、自分で自分を鼓舞し、前だけを向いて冷静に取り組んできたと思います。

勇気を持ち続けられる原点は何なのかと聞かれるたびに、祖母の言葉を思い出します。

幼少期の私は髪を裾が自然と後頭部の中央にまとまっていた。祖母は当時の私の後ろに座るたび、髪を裾を握っては、「これは『つんづめしよ』と言って、転びそうになると神様がここを握って助けてくれるんだよ」と言っていたのです。何度も転びそうになった経験を繰り返しているうち、きっとこの「つんづめしよ」が私を助けてくれている

のだ、と思うようになりました。

そして、勇気を持ち続け、この四半世紀、何が起きても負けずに走り続けてきた粘り強さこそ「清陵魂」だと思っています。

「ひと」の一生は長い人類の歴史からすると非常に短いものです。その短い間に、精一杯生き抜き、社会に貢献し、少しでも多くの幸せを感じ、そして後悔なく命を終えることが「ひと」の使命だと思います。その使命を果たすための道なので「清陵魂」は大きな力になってくれるでしょう。

仲間の勧めで 美術の道に進んだ



市川健治 / ウタマロケンジ
(89年生)

Kenji ICHIKAWA

美術作家・東京デザインブックス研究所
クリエイティブデザイン専攻 主任講師

私は美術作家でありデザイン学校の講師でもあります。作品制作と指導の二刀流ですが、マイペースで作品制作する日々を過ごしています。

美術作家を志したのは、まさに諏訪清陵高校時代でした。清陵には自由な校風に憧れて入学しました。

「自反而縮雖千萬人吾往矣」——。墨文字の大きなのぼり旗の強烈な存在感、地方会の「下諏訪黎明会」に参加した時の様々な経験、長い校歌、「金色の民」、「清陵祭」などは、どれもとても刺激的でした。そして、個性豊かな同級生たちからも様々な刺激を受けました。彼ら彼女らの学ぶ姿は、とても楽しそうに輝いて見えました。仲間の学期末試験などの結果は私のはるか上で、「やばいな。このままでは」と私はいつも感じていました。

美大を目指そうと決意

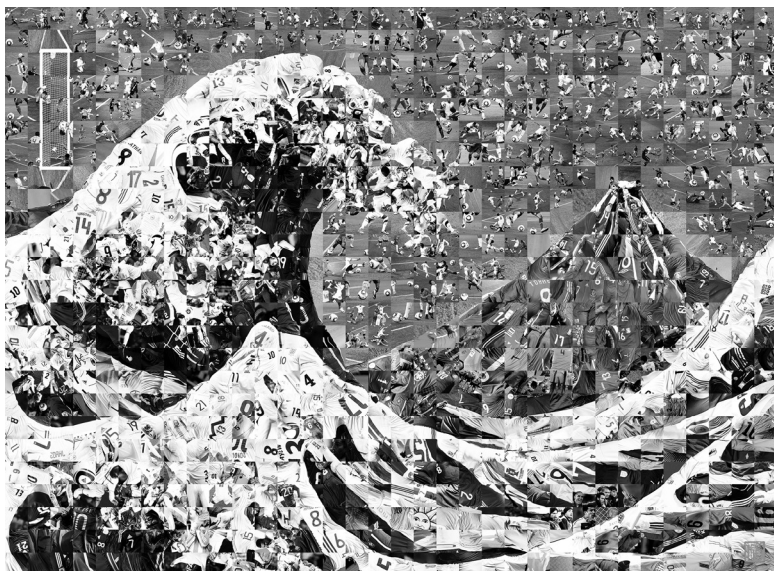
高校2年生の冬、進路を担当の先生に伝える日がありました。その日に私は「目指すなら好きなこと。志望校は美術系大学」と決断しました。同級生にそのことを伝えると、「市川は、美術系でしょう!」と私を盛り上げてくれました。志望大学の詳細は美術担当の先生に相談に乗っていただきました。「市川は、きっとデザインがいいぞ」とアドバイスをいただき、「将来はデザイナーになる」と決めました。さっそく、美術部に入り、放課後は美術室で仲間と実技試験対策をするようになったのです。

そこで気が付きます。「周りの仲間はすごく絵がうまい」と。「修業が必要だ」と思い、私は高校3年生の春・夏、そして大学入試直前に東京の美大受験予備校の講習会に参加しました。そこには全国から美大志望の受験生が数多く集まっていました。

そこでさらに気が付きます。「うまいやつが多過ぎる」ことに。そして清陵美術部の「すごくうまい」仲間が東京芸術大学や私立の美術大学に現役合格する中、私は浪人が決定しました。

しかし私は、「才能が開花する時は人それぞれ。もっと修業せねば」と思い、上京しました。美大受験予備校で、デッサン・色彩構成・立体構成の制作に明け暮れました。ここでお世話になった先生や仲間は数え切れないほどです。たくさんを学び、刺激を受けました。結局3年間修業しても東京芸大の合格には届かず、桑沢デザイン研究所に入りました。そこで、デザイナーになるための課題を毎日毎日手作業で制作しました。当時はパソコンなどなく、すべてアナログな作業の繰り返し。それを通して、私自身「パワーアップしたな」と実感するようになったのです。

そんなある日、友人から「来年から武蔵野美術大学(武蔵美)でパソコン教育が始まるらしいよ」と聞きました。私は「これからはデジタルスキルも必要だな。来年は武蔵美に行こう」と再び決断し、試験を受け、合格を果たしました。



「2010 わーどどかっぶ・ウキヨエ 02」(2010年)。ピクセル・モンタージュの技法を用いてサッカー選手の写真を貼り合わせている

武蔵野美術大学では、デザイン・写真・ビデオなどによる表現の課題制作を通して、アナログとデジタルの両方のスキルと感覚を鍛えられました。さまざまな表現の研究に没頭し、大学院にも進みました。

こんなふうに私は、美術の世界に浸かっていったのです。大学の課題制作の他に、「私が表現したいことを自由に表現する」作品制作も始めました。

独自の制作技法を生み出す

大学1年生から、美大受験予備校講師とデザインのアルバイトを始めて金銭的に(多少)余裕ができたこともあり、主に「ピクセル・モンタージュ」という技法による制作を始めました。

「ピクセル・モンタージュ」とは、大量の印刷物や写真を正方形に切って、形や色を考えながら繋げて、貼って、を繰り返して一つの世界を表現するという、予備校生時代に考案した独自の技法です(写真上)。

作品のアイデアが生まれたら、次は展覧会を開きたい。ただ、自分の展覧会を開くには会場費・宣伝費が必要です。「そんなお金は無い」ので、私は有名な「公募展」を調べて新作を出品し続けました。運よく数々の公募展で入賞や入選できたことで、様々な美術作家と出会い、いろいろなギャラリーなどで作品を多くの方々に観賞いただけました。特に、NHK「日曜美術館 アートシーン」で作

品を紹介された時や「岡本太郎現代芸術賞」で特別賞を受賞した時が大きな転機となりました。いくつかのギャラリーの方々と知り合い、国内外でアナログ作品、デジタル作品の両方を展示できています。

また、企業などの依頼による作品も制作しようと考え、「ウタマロケンジ」という別名で制作を始めました。フジテレビの番組「笑っていいとも!」で紹介されると、企業や個人のお客さんから制作を依頼されるようになりました。下諏訪町の「^{たんが}旦遇の湯」の作品や地域ブランド「諏訪の国」のロゴ制作をさせていただいたことも大変ありがたい経験でした。

このようにマイペースで生きながらも、清陵時代から今まで、周りの人々からたくさんの刺激と御助力をいただき、今の私があります。周りの人々への感謝を忘れずに、やはりマイペースで「私の表現」を続けていきたいと思っています。

※作品や展覧会情報などは下記をご覧ください。

市川健治/ウタマロケンジ
「ギャザリングアート」
<http://www.gathering-art.com>



市川健治/ウタマロケンジ
Instagram
https://www.instagram.com/kenji_ichikawa_utamaro/



シンガポールで考える 3つの「S」



金子哲哉 (89年生)

Tetsuya KANEKO

丸紅アセアン会社調査部長

私は商社に勤務しており、2019年4月からシンガポールに駐在しています。この駐在中に、新型コロナウイルスの感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻という世界を揺るがす大事件が起こり、政治的にも経済的にもかつてない状況が到来しているように感じています。他方、「グリーン」「デジタル」という大きな変化の波も押し寄せており、私たちは今、まさに歴史の転換点のまっただ中にいるのではないかという思いがします。

こうした中、私たち一人ひとりはどう生きていくべきでしょうか。私は3つの「S」で始まる言葉が大事ではないかと考えております。本稿では惜越ながら、それらについて述べてみたいと思います。

空を見上げて「ゆっくり」

1つ目は「Slow」(ゆっくり)です。スマートフォンの普及やソーシャル・メディアの浸透などにより世の中には情報があふれ、私たちは大変慌ただしい毎日を生きています。ただ、そういう時代だからこそ、時には一息ついて、青空を見上げてみる、緑の匂いをかいでみる、そんな「ゆっくり」が大事ではないかと思うのです。

忙しいといふ視野が狭くなりがちです。物事の本質を見失っていないか、大事なものを犠牲にしていないか、そのようなことを「ゆっくり」、我に返って見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

「急いては事を仕損じる」ということ

わざがあります。また、漢字の「忙」「忘」は、共に「心を亡くす」と書きます。これらはいずれも「急ぐと心を亡くして失敗する」ということを言っているのではないかと思います。

「ゆっくり」すると良い考えも浮かびます。私は仕事上、何かアイデアが必要な時などには、ゆっくり散歩すると解決策がひらめくことも少なくありません。このように良い偶然に遭遇することを「Serendipity (セレンディピティ)」といいます。これもSで始まる単語ですね……。ちょっと脱線しました。

ここシンガポールでは、ゆっくり歩く人が多い気がします。その理由はサンダルを履いているからだという人もいますが、それにしても南国のおおらかさを漂わせながらのんびり歩いています。そんなシンガポールは、豊かさの指標である「1人当たり国内総生産(GDP)」が2010年頃に日本を抜き、今や日本のおよそ1.5倍にも達してアジアで最も裕福な国になっています。「ゆっくり」のシンガポールが先頭を走るようになったのです。もちろん、シンガポールの発展の背景にはグローバル化を積極的に推し進める経済運営などさまざまな要因があるのですが、同時にこのことは、ゆっくりでも遠くに行けるということを示唆しているような気がします。

2つ目は「Smile」(笑顔)です。近年、米中対立やロシアのウクライナ侵攻などにより、世界の分断が顕在化してきました。こうした対立は国家間のパワーゲームという側面もあり、容易に解決できない難題ばかりです。ただ、そうした中でも、個人一人ひとりができるだけ多くの「笑顔」を見せれば、それが回り回って世の中の対立の緩和に多少なりとも寄与するのではないかと。そんな気がしています。

個人の「笑顔」はささやかな行為かもしれませんが。ただ、国家や世界は個人の総体です。「笑顔」が多い国は幸福度が高くなり、政治が安定し、国家間の対立も緩和され得ると思います。一人ひとりの小さな笑顔が国家の姿にまで影響を及ぼすという、いわばバタフ

ライ効果(小さな現象がとてつもなく大きな結果を引き起こすこと)が起こり得るのではないかと思います。

笑顔を見れば心が和むのは、人種や民族を問わず世界共通です。シンガポールには中華系、マレー系、インド系など様々な民族が住んでいて、言葉や文化、宗教はまちまちですが、笑顔が心と心を通わせるのは変わらないと感じます。

諏訪といつもつながっている

そして、3つ目は「Seiryō Seishin」(清陵精神)です！これは、この会報をお読みになっている皆さまだけが持つ貴重な財産です。「自治」「質実剛健」「自反而縮雖千萬人吾往矣」など、私たちは多感な高校時代に清水ヶ丘の学び舎で、なんと素晴らしい校風に接したことでしょうか！これらはいずれも、人生の確固たる土台を作るのに必要な資質であると思います。清陵で学んだ私たちは、これらの言葉が体に染みつき、血となり肉となって、今を支えています。私はこうした教えを授けてくれた清陵に感謝していますし、こうした精神が根付いている学び舎を卒業したことを心から誇りに思っています。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」。シンガポールで日本の方向を見上げると、室生犀星の詩の一節が頭に浮かんできます。日本から遠く離れていても、故郷の諏訪の青空や八ヶ岳の稜線、緑の若々しい匂い、セミのにぎやかな鳴き声などが、五感全体でくっきりとよみがえってきます。諏訪はいつも自分とつながっているんだと、ここシンガポールでも実感します。最後になりますが、清陵同窓の皆さまが「清陵精神」を胸に、ますますご活躍され実り多き人生を送られますことを、心より祈念申し上げます。



ご家族とマリーナベイサンズのレストランにて

「ひと」という言葉の由来



・飯田茂実(89回生)

Shigemi IIDA

演出家・ダンサー・語り部

飯田茂実さんは、京都大学文学部を中退後、南禅寺で禅を学び、舞踏家の大野一雄・大野慶人両氏に師事。世界各地に招かれてマルチ・アーティストとして活躍するかたわら、日本全国を巡りダンスと全体の指導を行ってきた。高遠の山里で自然農による耕作と子育てをしながら、2021年からはYouTubeで「みたからチャンネル」を開設して情報発信も始めている。

「ひととは何なのか」？これまで学んできた知識・体験と照らし合わせつつ、私はこの問いかけについて、地元の伝承をご紹介します。

私は伊那で生まれ育った祖母に育ててもらいました。祖母は語り部として、大昔からの膨大な言い伝えや生活術・心身術を地元の古老から受け継いでいました。これから紹介しますのは、この祖母との暮らしの中で私が20年あまりかけて受け継いだ事柄です。

沖縄と共に「民族学の宝庫」と呼ばれ、折口信夫、中沢新一など多くのフィールドワーカーを魅了してきた伊那。神代からのいろいろな生活習慣が奇跡的に残存していて、かつては桃源郷とも呼ばれた伊那。諏訪から峠を一つ越えたお隣の伊那。

「ひと」という昔ながらの言葉の中身

伊那の伝承では「ひと」という言葉は、もともと「お日様の戸口」という意味なんだそうです。

人生の10段階(ひ・ふ・み・よ・い・)

む・な・や・こ・と)すべてをつぶさに
に体现できるのが「ひ〜と」である
という別の意味も伝わっていますが、こ
ちらは話がだいぶ長くなるので省きます。

「ひ」という音は、ご存知のように、
お日様を指しています。命を照らして、
晴らして、育てるチカラ。「ひ」のチカ
ラを借りてきたのが「ひかり」です。唯
一絶対かけがえのないワンネス、全て
の初源=ビギニングを指しています。

そうした「ひ」の戸口が「ひ・と」
なんです。

世の中にはヤミがあります。やみ。
おしまいになるってことです。元気な
命が終わりになるのが、病み。ひかり
が尽きて終わってしまうのが、闇。あ
らゆる病気と症状、そして社会問題の
ことを、大昔から人は「ヤミ」と呼び
習わしました。

人は誰しもかならず、生命の痛み・
胸の苦しみ・頭の名病み(悩み)という、
3つのヤミを経験します。

命が病んだらどうすればいい? 世
の中がヤミに覆われたらどうすればい
い? 天岩戸をひらくという神話に象
徴されているとおり、ヤミを照らして
晴らせばいいのです。この「照らして
晴らす方法」を知って・心得て・生活
習慣として身につけている存在が「日
戸」なんです。

日戸になるためのスベ=術=方法は、
大昔から神代語り=神話という形で、
年中行事の神楽のなかに体现され、大
切に継承されてきました。神楽のなか
では天岩戸をひらいて世のヤミを晴ら
すために、みたりの神が3つのことを
いたします。この3つの象徴行為を学
んで身につけ、日常生活の中に応用し

て体现しながら暮らすのが「日戸」です。

みくさみたからを継承する

3つでひとつの習慣は、諏訪で「た
まち」、伊那で「みくさみたから」と呼
ばれました。海外でもまたいろいろな
民族が大切に伝承してきた無形文化財
はこの「3つでひとつ」の要素をかな
らず含んでいます。

もちろん世界中どこでも農山漁村は
急激に近代化され、祭りは形骸化して
消えていき、伝承されてきた文化は、
大量消費文化の中で次々と根絶やしに
されてきました。悲しく痛ましいこと
です。

祖母から受け継いだ、大昔からの重
要な伝統を、私の代で途絶えさせるわ
けにはいきません。この伝統はなるほど、
びっくり人類存続の鍵となるような宝
です。受け継いだ種を保存し、増やし、
つぶさに広く種まきする人たちが必要
です。

私はこれまで世界20カ国余りの都市
に招かれて「みたからのひらき方」を
伝えてきました。対象は、教育者・学者・
医師・芸術家たちなど様々です。孤児
院や少年院、救貧院などで、カリキュ
ラムとして「みたから」が採用された国々
もあります。

今、世界中で「Mitakara Opener」と
呼ばれる多くの仲間たちが、この生活
習慣を楽しみながら、それぞれの国を
代表するような「日戸」として大活躍
を始めています。

日本では子育てをしているお母さん
たちや、お医者さん・看護師さん、自
然農家さんなどに招いてもらって、こ
の10年間で、全47都道府県へ出向きま
した。小学生・中学生・高校生へも「ひ



自然農をしながら子育ての日々

らき方」をお伝えしてきました。20歳
ほど年下の助手・田村草八郎も清陵の
卒業生で、「ひらき方」を普及させるた
め海外へ単独で出向いてくれています。

昨年からは思い立って動画の編集技
術を学び、YouTubeでこの生活習慣を
発信していくことにしました。動画によ
っては英語の字幕もついています。よろ
しかったら「みたからチャンネル」で
検索して「再生リスト」をチェックし
てみてください。もしもお声をかけて
もらえましたら、日本中どこにでも、
みたからのひらき方をお伝えしに参り
ます。

世界の「新石器時代」は、日本で、
とりわけ信州で幕を開けたことが、今
では広く知られています。新石器文化
の中心地であり、日本4代聖地のひと
つとも呼ばれる、黒曜石の故郷。

そんな世界有数の伝統をもつ諏訪地
方で育った方たちが、この太古からの
生活習慣を、率先して取り戻し、日ご
とに楽しみながら、次の世代へと継承
していってくれたらと、切に願ってい
ます。

全5業態 15店舗



グラニー史密斯
アップルパイ&コーヒー

東京・神奈川・兵庫で11店舗を
展開するアップルパイ専門店



ファンゴ

創業25年を迎えたサンド
イッチ・ハンバーガーカフェ



ファンゴダイニング

イタリアンベースの料理やワインを
楽しめるカジュアルダイニング



テンフィンガーズバーガー

50'sテイストを盛り込んだ
アメリカンハンバーガーカフェ

香治郎

酒 秀治郎

様々な日本酒を飲み放題で
味わえる完全予約制居酒屋

FUNGO GROUP

<https://www.fungo.com>



株式会社ファンゴー
代表取締役 関 俊一郎 (89 年生)

コロナ禍の中での 同窓会活動

会長 ^{はら}原 ^{たかし}大(73回生)



足掛け3年に及ぶコロナ禍により、東京清陵会の活動も大きく制約を受けて参りましたが、会員の皆様には深いご理解と多大なご支援・ご協力を頂いておりまして厚く御礼申し上げます。

例年10月開催の総会につき、今年も難しい選択を迫られております。一昨年は一旦延期の後、最終的には中止とせざるを得ませんでした。昨年は2年連続の中止は何としても避けたかったのですが、東京オリンピックもギリギリ無観客で開催に漕ぎ着けた状況下、総会は中止とせざるを得ませんでした。

ただ当番幹事の88回生の皆様を中心に大変なご尽力頂き、当日にミニ講演会やグループ談話会など「総会イベント」をオンラインで開催させて頂きました。初の試みではありましたが、海外からの参加もあり大変なご好評を頂くこととなりました。

しかし、やはり同窓会の総会は同窓生が年に一度顔を合わせて集ってこそ、連帯も深まり意義あるものとなろうとの意向も強く、また社会的にもウィズコロナによる対応力強化が進められつつあり、今年は参加人員などの制限や必要な対策を十分設けた上でリアル参加を実現し、オンラインと合わせ

てハイブリッド形式での開催を現状計画しております。

100年に一度の世界的規模の感染症パンデミックを目の当たりにして、一時は社会全体が自宅待機状態となり、同窓会活動も活動停止状態となりました。しかし、社会の対応力にも大変高いものがあり、対面接触を避けるための代替コミュニケーション手段であったオンラインの利便性や有効性を向上させて、今や主要なコミュニケーション手段の一つとして社会活動を大きく支えております。

東京清陵会の目的である「親睦・交流」、「研鑽」、「母校生徒支援」の各活動も現在は殆どがオンラインにより開催されるか、開催可能な状況となっております。例えば「研鑽」目的の「清陵勉強会」は、オンラインにより本部や他支部からの参加も可能となり、コロナ収束後でもオンライン併用を期待されております。しかし残念ながら、オンラインでは代替できない活動もあります。「母校生徒支援」の清陵中学3年生の研修旅行である職場見学の受入れ活動は、好評でありながらここ2年中止を余儀なくされております。一方新たな活動として、4月に清陵において同窓生の大学教授6名(うち3名がリアルで)により模擬講義を実施して頂き、今後も定例な活動として計画しております。

コロナ禍により東京清陵会の活動の先行きを危惧した時期もありましたが、当番幹事の皆さんや委員会及び役員の方のご尽力と会員の皆様のご支援・ご協力により今や乗り越えつつ、さらにコロナ後の新しい道筋も見えて参りました。

今後とも皆様と共に東京清陵会を盛り立てて参りたく、何卒宜しく願い申し上げます。

「活性化ワーキンググループ」の10年間の歩み

2011年秋に、82、83、84回生の有志により、東京清陵会を活性化するために、当番幹事前の中堅世代が立ち上がり、「活性化ワーキンググループ」(以下WG)を発足しました。2012年度から、2021年度までの10年間の歩みを簡単に振り返るとともに、取り組むべき課題についても考えてみました。

■10年間の振り返り

1. 学年幹事選出運動

・2011年度には87回生以降の31学年のうち学年幹事選出学年は7学年(23%)でしたが、2013年度には20学年(67%)まで拡大。2015年度に全学年で選出。

2. 世代ごとのイベント開催と

開催幹事制度

(1) 働くことを考える会：2012年度総会懇親会の中で、参加した学生が社会人同窓生と交流出来、働くことを考えるプレ就活の機会として、「学生社会人交流タイム」を開催し、2014年度まで3回開催。2015年度からは、「働くことを考える会」として単独イベント化し、2020年度まで6回開催。

(2) 「新卒歓迎・学生交流会」：2013年度から、新卒生を同窓会としてサポートすべく開催、30名程度の学生が参加、毎年20名弱の新卒生が登録。2016年度から学生主体運営に切り替え、より主体的な参加を促し、2018年度まで6回開催するも、その後、個人情報保護の観点から新卒学生の情報入手が困難となり、現在は休会中。情報入手ルート開拓により、2022年度は再開を模索中。

(3) 「ミドル交流会」2014年3月に開催。30、40代の同窓生に向けて、企業経営者などの先輩の話を伺う機会とし、人間力や人脈形成など、現役中堅世代に同窓会参加のメリットを訴求。2021年度まで8回開催。最近は、翌年当番幹事

学年の学年結末、運営トレーニング機会としても定着。

3. 女子会の再開

・しばらく休止していた女子会を2016年度から、佐藤美智子(88回生)さんを中心に再開し、2021年度まで7回開催。

4. 母校連携

・東京清陵会発での取り組みは以下。

(1) 附属中学の同窓生職場見学：2016年度から2019年度まで4回受入れ。20、21年度はコロナで中止あるも、2022年度再開予定。

(2) 高校キャリア講座へ講師派遣：2017年度から派遣。20年度はコロナで中止なるも、21年度はオンラインで開催。東海・関西支部から講師派遣。22年度

も開催を予定。

(3) 高1学習合宿への講師派遣：2017年度、19年度。

(4) 附属中学地域連携講座に講師派遣；「地域」「医療」「グローバル」のテーマを年毎に開催。「グローバル」テーマの17年度は東京からも派遣。

(5) 清陵祭での展示「同窓会の部屋」・2019年度に初めて展示（87回生）、200人が来場、21年度は二度目の展示と生徒との交流会も実現（89回生）。

5. 委員会制度の導入

・活動が多様化し、役割分担で負荷軽減とサポートノウハウ拡充のため、委員会制度を2017年度から導入。「企画・財務委員会」（企画・予算決算管理・母校連携）、「組織委員会」（行事開催サポート）、「会員情報管理」（会員情報管理・会費納入管理）、「広報委員会」（HP・SNS）、「総会運営サポート委員会」「会報委員会」の6つを設置。事務局員に加えて、常任幹事、他の若手学年幹事への参画も呼び掛け。

■コロナ禍でのオンライン対応

・2020年度より、Zoomでの会議・勉強会を継続開催、総会も20年度は会報書面会とするも、21年度は88回生による

総会企画イベントは開催できた。

■運営上の課題

(1) 業容

①会員の減少：3421名（2012年）⇒2728名（2021年）と▲21%。多登録世代の高齢化、中堅・若手会員登録の低迷が要因。

②年会費・賛助金納入人数の減少：637名（11～13年度一括）⇒332名（2021年）と▲48名。なお、繰越金は868万円（2012年）から770万円（2021年）と▲11%。

(2) 同窓会の魅力の再定義

①同窓会の基盤となるのは同期会。大半の学年で幹事は選出いただいておりますが、活動参加、年会費納入には必ずしも至っておらず、どの世代にも魅力ある同窓会活動を追求していくことが課題。

②価値観・行動様式の多様化の中、家族・職場等・他で各人が大事にするネットワークに次ぐ、第4のコミュニティとしての同窓会の位置づけ、魅力は時々に見直し、フィットさせていく必要あり。

(3) IT化の遅れ

①会員情報管理の負担大で、クラウド化も課題。

②年会費等納入手段の多様化、クレジッ

ト決済の導入も検討。

③会報の電子送信（会報送付2700名に対して、会費賛助金納入は330名程度）。

(4) 同窓会本部との連携強化

①一体効率化業務；会員情報の本部一体管理・クラウド化、HPの一体運営。

②企画機能強化への連携：本部事務局の組織強化、中堅世代の参画。

③コロナ禍でのオンライン運営体制整備。

WGとしての10年間の歩みと足元の課題を掲げてみました。振り返ってみると、前に進められたことと、後手に回ってしまったことが明確になりました。遅れてしまったことはひとえに私の知識や取り組みに起因し、ここにお詫び申し上げます。一方で、進められたことは推進する役員・幹事、母校の皆様はもとより賛同して参加いただく同窓生、本当に多くの方のご協力があった成し得たものと改めて感謝しています。ここにきて、次世代WGとして、新たなメンバーが動き出すようです。斬新なアイデアと行動力でリーダーシップを発揮し、新たな清陵ブランド・清陵プライドを築いていただくことを期待しています。

(82回生 事務局長・北原譲)

94回生 学年同窓会&母校連携支援

皆様こんにちは。94回生学年幹事の藤森と申します。私は京都に住んでおりまして、東京清陵会におかれましては馴染みのない顔であるかと存じます。今回、北原先輩からご依頼をいただきまして、最近行っております当代の94回生消息（連絡先）確認の試みについて紙面をお借りしてご紹介させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

94回生（1991年卒）は今年度50歳を迎えます。5年後の同窓会幹事の大役を控え、多くの94回生と連絡を保ちたいところではあるのですが、2010年に卒業20年の学年同窓会の開催時以来、全同回生へのハガキ連絡も行っておらず、コロナ禍により2020年に行おうとしていた学年同窓会も延び延びになってしまっておりますことから、つながっているのは年に数回私から不定期に配信している学年同窓会メールだけ、それもだんだん宛先不明となって減少（122通）してしまっている、という状況でした。

そろそろ改めて94回生の連絡先確認を

行わなければいけない、と考えていたところ、東京清陵会の94回生から、母校連携支援のために協力できる人を探し、リスト化することを計画している、との相談をいただき、それに便乗して学年同窓会としての連絡先確認も行わせていただこうと、下記のようなことを行いました。

【目的】

・94回生の現在の連絡先をアップデートする。卒業時の住所や電話番号しか分からない方にもこの機会にハガキで連絡して、今後の連絡のためにもメールアドレスを得たい。また、今後連絡先が変わったときには自分で変更や確認などできるようにしたい。

・母校連携支援事業に協力いただける94回生を募り、協力いただける範囲や形態も確認したい。

【方法】

清陵94回生のGoogleアカウント上に、下記の内容を入力いただくフォームを設置した。



<https://forms.gle/S6TQKDbCTSkE7c4W9>

1. 氏名（必須項目）、高校時代のクラス
2. メールアドレス（必須項目）、電話番号、住所
3. 現在のお仕事、勤務先、活動等（趣味や地域・社会貢献活動（諏訪に限らず）、皆さんと共有したい事）自由記載
4. 母校連携事業へのご参加ご意向（下記項目にチェック。複数回答可）
 - ・仕事や活動の紹介講演／会誌等掲載にご協力いただける
 - ・職場や活動現場の紹介にご協力いただける
 - ・居住地近辺の清陵出身大学生を可能な範囲でサポートできる
 - ・推薦を受ける等、協力を要請されたらできる範囲で協力できる
 - ・その他
5. 紹介・推薦したい同期の方、その方の活動や消息
6. ご自身の近況、思うところなど自由記載

(94回生 藤森賢也)

「新しい三つの構想」 動き出しました

一昨年、昨年の会報に、コロナ禍で考える「新しい三つの構想」の方向性をお示しました。2022年度は、いずれも具体的な活動として動き出しました。「人材バンク」は、当番幹事である89回生(55歳学年)が、会報巻頭特集で多くの同期生を掲載、翌年幹事の90回生、サブ幹事50歳の94回生も清陵祭展示で同期を紹介掲示したものを会報に転載、これらを事務局の「人材バンク」のデータベースとして保持。来年度はサブ幹事45歳学年も加わることで、5年間継続すると、45歳から60歳まで15学年が網羅されます。その他の学年の「同期自慢」や「先輩・後輩紹介」も大歓迎です。「同好会・研鑽会活動」は、諏訪らしいものとして、「諏訪力」講座を発展的に開始、地酒の多い諏訪らしい「日本酒同好会」がスタートしました。いずれも東京に限らず、全国的な活動に展開中。「ライフシフト倶楽部」も、期せずしてライフシフトしている同窓生からの寄稿をお願いしました。こちらも来年・再来年の候補者もあり、座談会などでその要素の抽出と還元をしていきます。(「新しい三つの構想」発起人：北原譲)

「人材バンク」 活躍する同窓生の紹介

2022年の清陵祭で22年当番幹事を担う89回生が同窓会展示を行い、自主的な同期の紹介を掲示しました。これを発展させ、会報に転載し広く同窓生に知らしめるとともに、サブ幹事の94回生も加えて、人材バンク登録を充実します。「人材バンク」委員/母校連携委員を兼ねて、小野隆吾、竹内雅彦(ともに82回生)が担います。社会的な活躍に限らず、小さな企業、個人事業主、趣味、社会貢献何でも輝き、稀有な同窓生を紹介したいところですが、「活躍する」の定義は難しく、学年幹事中心に「同期自慢」としてスタートします。徐々にノウハウが蓄積し、メッセージを示すことも検討していきます。まずは母校キャリア講師や付属中学の職場見学の候補先としてストックして、先行きは現役清陵生(同窓生)、同窓生からのアプローチできる仕組みを準備していきます。(82回生 北原譲)

同好会・研鑽会

昨年の会報18ページに「同好会」構想を掲載しました。一つは、諏訪を学びたいとの声も多く聞かれ、石埜穂高(78回生)さん、石埜三千穂(86回生)さんご兄弟らが行う「諏訪力講座」を継続的な学びの会として発足を準備中で、キックオフ文を石埜穂高さんをお願い

しました。一方、諏訪の平には9つの酒蔵があり、上京しても、帰省しても、諏訪の酒を嗜む同窓生は多いようです。日本酒同好会を始め、5月の白州・七賢見学会+けいの家(99回生・北澤秀彦さんがオーナー)を宮坂賢一(89回生)さんにレポートいただきました。6月には「酒秀次郎」(89回生の関俊一郎さんがオーナー)、8月お盆には、地元で本金・真澄見学+研究懇親会も開催しました。(82回生 北原譲)

諏訪神仏プロジェクト ——諏訪の魔力、そして危機

「ひととはなにか」

89回生の皆さんが今号で掲げられた、この今年ならではの重要なテーマから始めるならば、人は巨大で制御不能な物質文明を作り上げた特殊な生物です。そして、主観だけの存在でありながら客観性・永続性を幻想しつつ死に至る儂い存在とも言えるでしょう。儂い——天地循環の一端である我々にとって、モダン社会が終わろうとしている現在、最も大切にすべきは生まれ出てきた足元——郷土であり母校でありそのマツリだと思えます。

諏訪の魔力と危機

日本列島の地質構造的なヘソである諏訪は、黒曜石の旧石器時代以来人類を惹きつけ、諏訪人のアイデンティティを紡いできました。古代斎王が大名となり幕末まで動かなかった例は他にありません。その独特の風土と信仰はこ

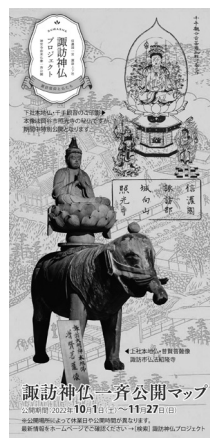
の時代にこそ魔力を発揮し、山本ひろ子編『諏訪学』、二本松康宏編『諏訪信仰の歴史と伝承』、小倉美恵子著『諏訪式』など、重要な出版も相次いでいます。

しかしその諏訪が、いま危機に瀕しています。人口は急減して19万人。製造品出荷額はバブル期から半減して県内製造業リーダーの地位を失い、母校の偏差値低下と定員割れもニュースになりました。

が、これは全国的な「地方の危機」の一端に過ぎません。バブル以降も経済成長のため集中化と均質化を推し進めたのは我々国民。諏訪の「普通の田舎化」を進めたのも、諏訪を去った我々東京清陵会メンバーなのです。

郷里を支えよう

という自覚のもと、私が目下お手伝いしているのが「諏訪神仏プロジェクト」です。これは、明治の廃仏毀釈の難を逃れ、諏訪地域の各寺院で守られていた上下社神宮寺の仏像・什宝を150年ぶりに一斉公開し、神仏融合の諏訪信仰の姿を振り返ろうというもの。10月1日



(土)から11月27日(日)まで、地域の19カ寺・4社・2館で多くの人に参拝・見学してもらい、文化・観光振興に結びつけようという企画です。参加寺社館とスワニミズム、(一社)大昔調査会などで構成する実行委員会は地元の同窓生が中核をなし、8月の清陵勉強会では照光寺の宮坂宥憲氏(106回生)が出講。女性部でも10月16日(日)に参拝ツアーを計画しています。また、僧都行列を伴う奉告祭(諏訪大社正式神事)やガイドブック、文化財調査報告書などに多くの資金を要することから、協賛会(会長:佐久秀幸長野日報会長)も設立されています。ぜひ下記のQRコードからホームページをご参照いただき、ご参加・ご協賛いただきたく心からお願い申し上げます。(78回生 石埜穂高)

「日本酒同好会」 初の酒蔵訪問でリアルに交流

ゴールデンウィーク終盤の2022年5月7日、「東京清陵会 日本酒同好会」の面々は山梨・小淵沢駅に降り立った。空は雲一つない快晴。東京都内とは違う清んだ空気がひんやりと心地よい。21年秋に発足した同好会では、これまでオンラインで自分の好きな日本酒などについて語り合ってきた。この日は念願のリアルな会合の初開催となった。

「七賢」を味わう

まず訪れたのは、山梨県北杜市の山梨銘醸株式会社。銘酒「七賢」の醸造元で、13代目に当たる北原対馬社長が我々を歓迎してくれた。82回生の北原譲さんの曾祖父(旧制諏訪中学4回生)が七賢の9代目蔵元を務めた縁もあって今回の訪問が実現した。

山梨銘醸は、1880年(明治13年)に明治天皇が山梨ご巡幸の際に宿泊所に指定されたという由緒ある建物で、欄間には「竹林の七賢人」の透かし彫りが施されている。古代中国で、世俗を嫌った7人の賢人が竹林に集まって語り合った故事に基づき、七賢という酒銘はこの七賢人に由来する。

建物などを見学した後は、昼前からさっ



山梨銘醸本社前で初のリアル会合を記念して1枚

そく試飲の時間が始まった。山梨銘醸が今、力を入れているのはスパークリング日本酒だ。炭酸ガスを後から吹き込むのではなく、スパークリングワインのように瓶の中で発酵が進んで炭酸ガスが生まれる「瓶内二次発酵」によりつくられている。こうした日本酒で世界へ打って出ようというわけだ。

スパークリング日本酒といっても、味わいは幅広い。白州らしくウイスキー樽に寝かせた肉料理にも負けない重厚な味わいのもの、飲み口がすっきりしたものなど、グラスに酒が注がれるごとに新たな発見があった。

ほろ酔い気分になったまま敷地内のレストランに移動し、次は昼食である。地元食材を使ったメニューがそろったこの場所でも、七賢の封が次々と切られ、メンバーはここでもグラスを傾けることになった。

さらに、東京に戻る途中では、笹子駅で下車して笹一酒造株式会社(山梨県大月市)を見学。最後は、東京・八王子で99回生の北澤秀彦さんが運営する居酒屋「けいの家 八王子本店」にて1日の反省会をしてこの日を締めくくった。

日本酒好き集まれ

酒飲みの会ではないかとの声もあるうが、同好会の活動内容は、1)オンライン・座学により日本酒の基礎知識を学ぶ、2)首都圏の老舗日本酒居酒屋での実地講習(コロナ禍の状況を勘案)、3)酒造見学により酒造りの実際を学ぶ——と、いたって真剣なものであることは強調しておきたい。

同好会では、山梨銘醸の見学を皮切りに、6月、8月にも実際に集まってメンバーが交流する日本酒勉強会を次々と企画した。日本酒がもともと好きと

いう方も、洋酒派で日本酒にそろそろチャレンジしてみたいという方も、参加をお待ちしている。同好会の名前には東京清陵会とあるが、同窓生の方ならどなたでも大歓迎。一緒に一献いかがだろうか。(89回生 宮坂賢一)



敷地内のレストランで挨拶をいただいた山梨銘醸の13代目、北原対馬社長

ライフシフト倶楽部

昨年の会報19ページで狙いと活動に付言しましたライフシフト。人生100年、現役80年の時代を迎え、人生後半戦を生き生き過ごすために、当番幹事で以降の世代が元気になり、ミドル世代のこれからに何らかの勇気あるメッセージを伝える活動として、職場に依存した生き方から、自律的なキャリアを歩み出した同窓生を紹介していこうと考えています。まずはロールモデルとなる同窓生から寄稿いただき、座談会などでその要素を浮き彫りにし、転機背景・きっかけ、最初の一步、その後の歩み方などを同窓生のみなさんに伝えてみたいと思います。

「LIFE SHIFT」の時代

～みんなで100歳目指して
ワクワク生きますよか?～

敦賀不二佳

(89回生、旧姓・牧島)



「100歳を目指してワクワク生きるにはどうしたらいいか?」これが今の私の人生の「お題」である。ベストセラー

になった本『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』(東洋経済新報社)には、「今、50歳未満の日本人は100年以上生きる時代を過ごすつもりでいた方がいい」とある。定年後は年金で生活する代わりに、たくさんのステージに挑戦し続けて高齢期を生きていくことが提案されている。100年生きるために、LIFE SHIFTは3つの無形資産を持つことが大事と説く。

- ①所得を増やすための力「生産性資産」
- ②心身の健康と幸福を維持する力「活力資産」
- ③社会の変化に柔軟に対応していく意志と能力「変身資産」

の3つだ。この3つの資産を増やすという意味では、私が55年間生きてきたこれまでの人生は意外に“イイ線をしている”のではと思う。3つの無形資産とのつながりを考えながら、私のこれまでを振り返ってみたい。

清陵・短大で学んだ自由さ

たまたま人数が多い学年で、諏訪地方の高校がクラスを1つずつ増やしてくれた。おそらくこのおかげで、念願の清陵へ滑り込みセーフ。それまで靴下の線の数までチェックされた校則の厳しい中学を卒業し、私服でほぼ何でもありの校風の中で「自由」を感じた。

そして、これまた運よく憧れの京都で看護学生に。家賃が月2,000円と安かった寮に入ると、そこは学生運動が盛んで、授業より社会問題を考えることが中心の生活になった。機動隊が踏み込んでくるような強烈な寮生活のおかげで、多少のことでは驚かず、受け入れられる「変身資産」の素地ができた。合気道部で身体を鍛えたことも「活力資産」増進につながった。勉学の優先順位は3番目くらいだったが、それでも3年間で卒業して岡山県の保健師学校へ進学でき、看護師、保健師、養護教諭の免許を取得できた。これが「生産性資産」獲得の第一歩だった。

最初に就職した諏訪中央病院は今でこそ有名になり、鎌田^{みのる}実名誉院長がテレビなどで大活躍しているが、当時は看護師も集まらなかった。親の勧めで気軽に受験した私は、院長からの熱い

お手紙に気をよくして就職。清陵出身者と期待があったかもしれないが、元々不器用で、不真面目な学生時代を送ってきたツケもあり、「牧島〜!」と日々怒られる日々から始まった。さらに就職から3カ月目に宴会で大トラをやらかし、それまでは「さん」付けで呼ばれていたが、翌日からどこへ行っても呼び捨てに。実は、このことが同僚の誰とも仕事をやりやすくなるきっかけだった。検体を持って検査室に飛び込むと、「お前か! 大トラやらかしたのは!」と既に有名人。災い転じて福となす。弱みを見せたことが円滑なコミュニケーションと周囲のヘルプを促した。

海外青年協力隊として南米へ

就職して5年。青年海外協力隊の受験を決めた。そもそも看護職を目指したきっかけは、中学校で習ったアフリカのエチオピア難民の問題。いつか困っている世界の人々の役に立ちたいという願いが現実となった。平成6年(1994年)1次隊保健師隊員としてボリビア共和国へ2年間派遣された。ここで自分の価値観が再び大きく変わった。

「健康はお金次第」。生きるためなら嘘も泥棒もあり。祭りの酒代は貯めても子どもの薬代は出ない。しかし、親を亡くした子供がいれば当たり前引き取り、障がい者は村のみんなで支える温かさを持った人々。途上国の人々は「助けを待っている人たち」ではなく「したたかに生きている人たち」だった。この2年間は柔軟さを養う大きな節目となった。

出産・育児で新たな人脈

青年協力隊の同期と結婚し、5人の



青年海外協力隊で現地の村を訪ね、医療教育を実施した

子供に恵まれた。女性は妊娠・出産で仕事を継続できなくなると嘆いた時期もあったが、その都度様々なパート勤務を体験し、看護職の経験値を上げることができた。子どもを中心とした新たな人間関係が広がったのも大きなギフトだった。子どもの名前が太郎、次郎、三郎、はなこ、五郎と覚えやすかったのも、友人・知人が増える理由だったかもしれない。

第2子の妊娠をきっかけに病院勤務を辞めて渡米。帰国後も各地を転々とし、愛知に来てから発達が気になる子どもたちの保育現場に携わる仕事を始めた。そのご縁が現在の市役所勤務につながった。保健師の採用に人が集まらず、45歳で正職員として就職できた。市役所勤務も現在10年目。介護予防担当として、「人生100年時代の現在、安心安全だけでなく高齢者が生き生き、ワクワクしながら生きるにはどうしたらよいか」を模索している。

今回、82回生の先輩である北原譲さんからの「LIFE SHIFT」というお題を軽い気持ちで引き受けて暗礁に乗り上げ、同期の宮坂賢一氏にヘルプを求めた。「新しいことに躊躇しないで進み、変化を受け入れて、そこから学びを得ることを繰り返してきたんだね」と私の人生への感想をもらい、自分では気が付かなかった強みを発見できた。そして今、LIFE SHIFTの時代に、この強みが生きていく上での武器となることにあらためて気づかされている。とはいえ、まだまだ分からないことだらけ。今、このテーマをもっともっと人と語り合いたい。100年人生はまだ半分チョイ。理想の花の咲かんまで……歩み続けていきますか!



ボリビアの病院で予防接種をする筆者(左端)。現地でさまざまな人と触れ合った

巻頭
特集

ひととはなにか ～新世代の息吹～

Part
2

これまで東京清陵会では各界で活躍する同窓生を数多く取り上げてきたが、今回は若い世代の中から5人組バンド「あるくとーふ」をご紹介します。彼らは2020年3月に清陵高校を卒業。現在はメンバー全員が都内などの大学に進学し、学業と音楽活動を両立する。彼らを都内の貸しスタジオに訪ねた。

●聞き手/89回生 吉中宏子 ●構成/89回生 両角はるか
●写真提供・あるくとーふ

●あるくとーふ Profile

2017年4月、諏訪清陵高校フォークソング部で出会った5人により結成。1年生で出場した長野県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会県大会で準優勝。2年生の1月、初めての4曲入りEPレコードを自主制作で販売。3年生の夏に出場した、FMラジオ番組などが主催する「マイナビ未確認フェスティバル2019」でファイナルステージ8組の1つに選ばれる。2021年11月に初のミニアルバム「サイファールーム」を制作、リリース。キャッチフレーズは“攻撃的ポップバンド”。現在はメンバー全員が都内などの大学に進学し、学業と音楽活動を両立させている。今年21歳をむかえた123回生。

特別インタビュー

Special Interview



あるくとーふ (123回生)

——5人の出会いは？

Nakamura: 中学でベースにはまっていたので、他者に何か表現する場が欲しかったというか、自分が思い切りできるものを高校でもやりたいと考えていました。まさに清陵を選んだのは、フォークソング部があるからってことが結構大きくて、頑張っって勉強して入りました。5人がバンドを結成したのはフォークソング部だったのです。

利佳子: 高校を決める時、私は出身が

松本なのですが、地元ではないところに行きたいと思って。清陵を選んだのはフォークソング部があるからという理由です。中学校の合唱部の先生から「音楽を続けてね」と言われたのですが、私はバンドをやりたいだったのでフォークソング部に入りました。まずメンバーを見つけなきゃいけないということで、同じクラスのamicoに声をかけたんですよ。私、amicoはピアノをやっているってことしか知らなかったのですが、「何

か一緒にやろうよ」って誘いました。そしたらamicoが入ってくれて、あとは少しずつ私からそれぞれのパートで声をかけてメンバーを集めました。

amico: 中学3年生の時にいきなりバンドに熱中し、結構その時からいろいろラジオを聞くようになりましたが、自分がやろうとは1ミリも思っていなかったです。でも、高校に入学してちょうど新しい友達が欲しいなって思っていて。一緒にの部活に入れば友達作れるかなぐ

らしいのりだったんです。キーボードは本当に高校に入ってからです。ピアノが弾けるからキーボードしかできないかな、ぐらいの理由で始めたんですけど、結構そこからはまって……。曲作りは高1の終わりぐらいから、興味本位でやってみたら「あれ意外と曲って作れるんだ」みたいな感じでした。

貴仁：最初は軽音とテニス部でどうしようかなと迷っていたんです。何か、何か流れて誘われて……。amicoと利佳子が一緒に。なんだかんだ、結局、何か違うなって思ったのか、テニスはやめて音楽1本って感じでした。

伊藤ヒナノ：小学校から始めたガールズバンドは、みんな高校が違ったりして、続けられなくなっちゃったんです。何か部活を選ばなきゃいけない時、私はそのままドラムができるという理由でフォークソング部に入りました。バンドをやりたいって気持ちがあったので。

——清陵での音楽活動は？

利佳子：朝練とかめっちゃめっちゃしていたんですよ。自由な校風ですから、特に学校で何か決められたことをやるとかじゃなくて、本当に何でも自分たちでやる。クラブ練習室で7時半ぐらいから爆音を出していたのに、全然先生たちに文句言われず(笑)。やっぱり学校で自由にできたっていうのはすごく良かったです。一番最初のライブが7月の清陵祭だったんですよ。1年生のヒヨッコが人前で発表できる初めての間でした。

Nakamura：その後、1年生の秋に県大会があったのですが、出場予定の2年生がたまたま修学旅行か何かで出られなくなっちゃって。その時フォークソング部顧問の先生が「君たち出なよ」と。他にも1年生はいたんですけど、清陵祭のライブを見てくださっていて「すごい気持ち良かったから出てみなさい」と勧めてくださったのです。どこまで通用するか分からないけど、挑戦です。50バンドぐらいいたのかな。そこでなぜか2位取っちゃって!! なんかそれもうすごいモチベーションになって、そ

こで他の学校のいろいろな仲間を知りました。それで自分たちの士気がどんどん上がりました。その時はまだコピーの曲を歌っていたんですけど、そこからは。自分たちで曲作ってみようみたいな、そういう意欲が出てきて、そこからどんどん大会に出るようになってたりして。

利佳子：それからは次の大会が目標になって、高校時代はずっとそんな感じ。

Nakamura：2年生になってからも、地区大会で2位になって全国大会に進出しました。

amico：ちょうど全国高校総合文化祭が長野県で開かれる時期に重なり、出場バンドの数が例年よりちょっと多かったこともあってそこにも参加。2つの全国大会に出場することで、そこで初めて県外のバンドを知って、さらに驚いて……。 (全員うなづく)。

利佳子：日本中には、こんなにうまい人たちがいっぱいいるんだって。

——ここまでトントン拍子でしたが……。

伊藤ヒナノ：そうですね。やっぱり進路で悩む時期が来て、そのまま続けられるのかどうかみたいな話をしました。2年生の終わりぐらいに「未確認フェスティバル2019」という大きなロック・フェスティバルがあって、そこで最終まで行けたらさすがに続けよう、みたいな。でも「もうほぼこれで終わりだね」みたいな空気感で進めていたんです。ところが、3000組以上の応募から1次(デモ・映像審査)、2次(ネット投票)、3次(ライブ審査)と進み、ありがたいことに8月のファイナルに残ったんです。最終的に新木場Studio Coastで開催されたファイナルに出場しました。それで音楽活動を続けるしかないなって決意して、みんな上京することにしました。

——コロナ禍での歩み、そして今後の一人ひとりの目標は？

利佳子：大学受験がちょうど終わったぐらいでコロナの第1波になり、私たち何もできなくて。でも、とりあえず

曲だけは作っとうか、と。全く表立った活動ができなかった時、「未確認フェスティバル」で私たちを知ってくださった今の事務所の方が「一緒にやりませんか」と何度も声をかけてくださったんです。それで、大学1年生の秋ぐらいに事務所に所属させていただくことを決めました。そこから、やはりせっかく事務所に所属したし、担当の方も売り出そうとしてくれているから、私たちも上を目指さなきゃねって。今やっと、ちゃんと1個の目標として“メジャーデビューしたい”という目標を掲げるようになりました。

Nakamura：自分は音楽と別に、美術大学でアートも学んでいるのですが、それも一緒に融合して、新しい発信の仕方をしたいですね。これまでやってきた音楽に、みんなそれぞれ個性が違おうと思うんですけど、それをうまくミックスして、新しい自分たちにしかできない表現を獲得したいと思っています。そんななかで、自分がマイケル・ジャクソンとかレッド・ホット・チリ・ペッパーズに憧れたように、憧れの存在になりたい。「Nakamuraさんを見てベースを始めました」という人が出てきたらすごいうれしいですね。本当にそういうプレイヤーになりたいなと思いますし、そういう一表現者になりたいなっています。

利佳子：私は、ずっと自分に自信が持てなくて……。でも歌っている時の自分はそもそも「自信を持つ・持たない」と考えずに、自分の好きな歌をただ歌っているだけという、そんな自分が最近好きだと思えるようになってきました。将来的にも自分の好きな歌をずっと歌っていける自分でいたい。そして、自分が好きな歌をいろんな人が聞いてくれて、それを好きだと言ってくれる。そんな自分になりたいと思っています。

amico：私は今までバンドを5年以上続けていますが、簡単そうだけ大変なんだっていうのを自覚しました。コロナの中で、友達のバンドがどんどん解散していくし、そんな中で、私たちあると——ふがいる意味って何だろうと考えました。やはり、ワクワク



利佳子(ボーカル)

松本市出身。小さい頃から歌や踊りが大好き。小学生から歌手を目指し、いきものがかり、西野カナは当時の彼女にとって憧れの的。中学では合唱部に所属



Nakamura Koji(ベース)

下諏訪町出身。あるくと一ふのリーダー。父の影響で様々な洋楽を吸収して育つ。小6でギターを手にする。好きな楽曲のフレーズを弾きたくて、中2からベースに夢中に



貴仁(ギター)

下諏訪町出身。マイケル・ジャクソンのライブDVDを見て兄と一緒に踊り出し、音楽の楽しさにはまる。中2でギターに目覚め、独学でマスター



amico(キーボード)

茅野市出身。母の勧めで5歳からピアノやエレクトーンを習う。中3でバンドに魅せられ、ラジオで軽音楽をよく聴くように。現在、あるくと一ふの作詞作曲を担当



伊藤ヒナノ(ドラム)

茅野市出身。2歳からリミックの音楽教室に通う。小3でドラムを始めたが、続けられたのは父の協力あってこそ。小学生時代からガールズバンドで活動

することを続けるということ、人生の目標にしたいと思います。私は元々作曲とか絵を描いたり何か作ったりするのが好きなので、これからも私の作った音楽を共有してくれる素敵な仲間がいるから、とりあえず「続ける」ことを目標に頑張っていきたいと思っています。周りの人たちから見たら、続けてくれているんだなって安心してもらえる存在になりたいです。

貴仁：自分は、今リアルタイムで1人の音楽家としての活動に挑戦してみたいです。そしていつでもその音楽をあるくと一ふに還元して、バンドってこういうものだよっていうのを壊し

て、アップデートしたいと思っています。1人の音楽家としての成長という部分と、バンドをアップグレードさせたいという部分が、今やりたいことかな。

伊藤ヒナノ：私は今までは仲間がいるからとか、先ほど話した通りの成功体験に引っ張られて音楽を続けてきた部分が結構あります。これからはもっといろんな経験をもとに、「私は音楽を通してこれがしたいから、今音楽をしているんだ」というふうに、胸を張って自分で音楽ができるようになっていなくなって思います。

これからはますます楽しみなあるくと一ふ。清陵同窓の多くの方々に応援してほしい。

Twitter: <https://twitter.com/ARKTH5>

Instagram: https://www.instagram.com/arkth_official



ツイッター



インスタグラム

YouTube



ビデオ・メッセージはこちら

諏訪の酒 真澄です。

真澄



MASUMI
SUWA 1662

人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ — 人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。
 自然を結ぶ — 負荷を最小限にしてより良い自然環境を継承する。
 時を結ぶ — 文化の継承。新たな価値の創造。



七号酵母発祥蔵元
宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



◀ 真澄ホームページ

94回生
同期紹介

「清陵出てから30年」の 私たち

天安門事件、ベルリンの壁崩壊、昭和天皇の崩御と平成の始まり——。

私たちの清陵時代は、社会の変わり目となる出来事が続きました。

50歳は「知命」——天命を知る年と言われます。

まだまだ迷いながらも、責任世代として社会の中で頑張っている同期をご紹介します。

何でも挑戦する気持ちが 今をつくった



●医師(丸子中央病院・沖山医院)

沖山(川村)葉子

下諏訪町出身。宮崎医科大学卒業。信州大学医学部附属病院消化器内科入局。同大学院医学研究科内科系専攻博士課程修了。現在は長野県上田市の丸子中央病院・沖山医院で診療を続ける。

清陵時代、米国に1年間留学し、自ら考え積極的に行動すること、そしてその結果に自分で責任を持つことの大切さと厳しさを学びました。消極的な自分を少しでも変えられたらと意識するようになり、大学時代も、今の仕事に就いてからも、興味を持ったことにまず挑戦してみるようにしてきました。それが、素晴らしい人との出会い、知識・技術の向上につながっています。学ぶべきことが山積みですが、それもまた楽しいと感じます。

専門家少ない医療分野に 意義を見出す



●信州大学医学部附属病院感染制御室 副室長

金井 信一郎

下諏訪町出身。大学病院の感染症専門医として、感染症診療、感染症対策のコンサルテーション、職員の教育・啓発に取り組む。HIV/AIDS(後天性免疫不全症候群)・性感染症予防、予防接種、新興感染症対策など、地域の活動にも力を入れる。長野県新型コロナウイルス感染症クラスター対策チーム統括アドバイザーも務める。

感染症はポピュラーな疾患であるにもかかわらず、専門の医師が少ない分野です。そこで、私は地域で感染症を専門にする意義を感じ、この分野を学び始めました。当初は「そんな誰もやらない分野には取り組まないほうがよい」と周囲から制止されましたが、今は初心を貫いてよかったと思います。敷かれたレールを進む人生も悪くはありませんが、自分でレールを敷きながら進む人生も悪くないです。

新たな材料を探し続けて 20数年



●オリンパスメディカルシステムズ(株)勤務

原 実

茅野市出身。東京農工大、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科を卒業後、東芝ケミカル(現・京セラ)入社を経て、オリンパス入社。2022年4月から現職。半導体材料、光学材料、医療材料と材料開発分野に取り組む。現在は、医療用内視鏡の開発に役立つ新たな材料の開発に注力。

清陵時代は吹奏楽部。3年生のときは部員100人をまとめる部長も務めました。部活が楽しく、将来を深く考えることもなく、化学が好きだから、それを生かして砂漠の緑化ができたという漠然とした考えで進学し、学生時代はバイオテクノロジーを研究して過ごしました。今は幸せだと感じているので、それなりに適切な選択ができたと思っています。2022年4月には50歳を目前に大きな異動があり現職に。また、新しい仲間とともに成長できるチャンスをもたらえたと感謝しています。

興味や出会いをきっかけに 金融商品開発へ



●三菱UFJ銀行 市場企画部 市場エンジニアリング室

原 豊

茅野市生まれ。筑波大学第三学群社会工学類を卒業後、東海銀行(現・三菱UFJ銀行)入社。デリバティブ(金融派生商品)の開発、販売、リスク管理に取り組む。専門を生かし、書籍『デリバティブ取引のすべて』(きんざい)の編集にも携わった。プライベートでは、家族とともに空手の稽古に取り組み、地元の仲間と交流を深めている。

清陵時代は、ハンドボール同好会、無線部、研修旅行委員などをしましたが、明確な目標は定まっていませんでした。ただ、諏訪から飛び出して環境を変えたいと思っていたのです。好きだった(得意かどうかは別です)数学と社会を生かし、社会で役立てられることはないかと考えるうち、筑波大学の社会工学類の教育内容を知り、「これだ!」と思いました。学生のうちは、なかなか目標を見いだせず、将来を不安に思うのは無理ありません。自分の興味や人との出会いを大切に、清陵の皆さんには高校生活を楽しみながら、自分の目標を見つけてほしいです。

魚に関わり続け、 人の役に立ちたい



●東京農業大学 生物産業学部海洋水産学科准教授
市川 卓

諏訪市出身。東京水産大学大学院水産学研究所博士前期課程修了後、(社)日本栽培漁業協会、国立研究開発法人 水産研究・教育機構を経て、2019年から東京農業大学オホーツクキャンパス(北海道網走市)勤務。博士(海洋科学)取得。魚介類を増やす増殖・養殖技術が専門で、現在はケガニなどの人工繁殖に取り組む。

「魚に関わりがあり、人の役に立って、食べていける仕事は何?」と考えて、報道で知った「栽培漁業」に興味を持ち、水産の世界を目指しました。学費と生活費を稼ぎながら大学に通ううち、清陵という器の中で自由を満喫し、義務と責任を学んでいたこと、その器の中味は多様であったことに気づきました。清陵でたくさんの「個」が確立した友人、大学でも少数ですが気が置けない友人に出会えたおかげで、充実した時間を過ごせました。最初の就職先が解散して無くなり、転職を経験するなど色々となりましたが、清陵と大学でのさまざまな出会いが今の職場につながっています。

「清陵出てから30年」の 私たち

人生はスパッと 解けないから面白い



●心理カウンセラー、スポーツライター
増澤 聡子

諏訪市出身。学習院大学経済学部を卒業後、日本テレビ放送網に入社。編成局にて番組制作を担当。その後、読売巨人軍および、当時日本テレビ傘下となったJリーグ「ヴェルディ川崎」に間接的に携わり、スポーツ志望の思いが少しかろう。2021年の東京五輪では、念願の男子サッカーの記事を手掛け、久保建英選手の記念すべきゴールを世界に発信できた。趣味は、サッカー、バレーボール、マラソンなどスポーツ全般。

やりたいことは全てやる! いつでもいつからでもやりたいことは始められる。清陵時代は、学友会の副会長。バレー部、茶道部にも所属した。実は、物理・数学など理系の科目が好きだったが、サッカー競技場で取材することが夢だったので、夢を実現すべく文系に転進した。人生は、物理や数学のように法則や方程式が分かればすべて解決というわけにはいかない。だからこそ面白い。高校時代から自由な発想を持ち続けて、今があります。

子育ての経験を 医療に生かす



●諏訪マタニティークリニック勤務 医師(産婦人科)
上條(根津)かほり

下諏訪町出身。女性のホームドクターとして、妊婦健診、分娩管理、産後のサポート、婦人科検診、手術、女性としての月経周期にまつわるトラブル対処、更年期障害、それにまつわる精神的サポート、育児支援などに関わる。諏訪マタニティークリニック独自の取り組みとして、特殊生殖医療の提供(ガイドライン作成)、里親・新生児委託への橋渡しなどにも携わる。

「基礎研究」や「高度救急医療」「がん治療」などにかかわる産婦人科医もありますが、私は子育てのために、いわゆる「医師のルール」を外れました。その分、医業中心では学べなかったことを知り、日々の診療に生かせていると感じます。どんな経験も無駄にはならないですね。

清陵の頃を振り返ると、とてもぜいたくな時間だったと思います。周りから浮かないようにと苦労した中学生時代から、清陵に入学すると多才な友人たちに囲まれ、「遠慮はいらない」どころか、どんどん自分を成長させないと周りに置いていかれる!と、うれしい焦りの中で3年間を過ごしました。背伸びした本に手を出して挫折したり、談話会で登壇したくて原稿を推敲したり、天文気象部、美術部などいろいろなことを経験しました。ファイヤーストームで泥だらけになって走ったことも、自分を解放するきっかけになった気がします。

清陵精神は 今も自分の中に



●京都大学産官学連携本部知的財産部門 部門長
藤森 賢也

茅野市生まれ。京都大学大学院農学研究科(食品工学専攻)修了後、協和発酵工業に入社、研究開発に従事していたが産学連携の仕事に興味を持ち退職、京都大学国際融合創造センター事務補佐員に。大学が知的財産本部を整備することになり、立ち上げから参画。そのまま知財部門の専門職員となる。大学の先生方(ノーベル賞受賞の山中伸弥先生、本庶佑先生なども)の研究成果を特許にして、企業に売り込む仕事です。

清陵に入学したとき、談話会で異なる意見を真っ向からぶつけ合う先輩方や、聞く人たちがそれを足踏みやシーコールで受け入れ、批判し、楽しむという文化に非常に刺激を受けました。「自分たちもあなりたい、受け継いで新しいものを作り、伝えていかなければならない」と強く思ったものです。高校時代の多感な時期に互いに刺激しあい、成長する場としての清陵高校が今も変わらずにあり、清陵生の皆さんがこの中で自らと、もしかしたら顔も知らない後輩たちへ影響を与え続けてくれることを期待しています。

新規講師募集中!!

清陵高校OBの大学生歓迎

株式会社 **リトルランド**

代表取締役社長 佐藤 一彦(76回生)

小学生に算数を指導する(算数オリンピック)
新規事業の講師を募集しています。
アルバイト、常勤、どちらでも可。
お問い合わせは下記へ。

〒210-0007
神奈川県川崎市川崎区駅前本町22-2
城南進学研究社本部ビル1階
☎0120-415-077



人の成長を サポートしたい



●国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 主任研究員

矢崎 健一

茅野市出身。北海道大学大学院農学研究科環境資源学専攻を修了後、独立行政法人 森林総合研究所に入所。東京農工大学 非常勤講師も務める。

幼少期からずっと教員になりたいと思っていました。清陵では学友会活動（文化祭実行委員長など）に勤めました。皆をリードすべき立場にも関わらず、能力や存在感のある友人や先輩たちに圧倒されてばかり。高校卒業後も教職を目指して進路を選択しましたが、採用試験に落ち、結局、国の研究機関に就職しました。樹木の研究者になったものの、教職に未練が残ります。「いつ転職しようか」といつも考えているような日々でした。そんな折、大学時代に夢中になっていたハンドボールを余暇で小中高生に教えることに。そこで、自分がしたかったことは、職業としての教員ではなく「誰かの成長をサポートすること」だと気づきました。気持ちの折り合いがつくと仕事に身が入るようになり、研究論文が発表できるようになりました。現在は「樹木が、温暖化や病気などのように耐えるのか」を研究をしつつ、つくばや札幌で小学生ハンドボールクラブを運営したりしています。

中学時代からの夢、 起業を実現



●株式会社キズナキャスト代表取締役、戦略コンサルタント

小林 広治

富士見町出身。早稲田大学理工学部を卒業。テクノエイドを創業。2000年有限会社テクノエイドを法人化。2007年、社名を変更し、株式会社キズナキャストとする。社員の幸福を中心に考える「Well-Beingマネジメント」の考え方にに基づき、新しい企業・組織づくりを支援する。

清陵時代は、入学当初から「初代空手部部长」を自称し、入部勧誘のチラシを1,000枚以上昇降口に貼りまくり、先生から厳しく叱られました。当時から、人と同じことはとにかくしたくなく、思考・行動・衣服の全てで、人と違うことを目指していました。中学生の頃から起業を考え、「世界一の会社をつくる!」と思いつけてきました。早稲田大学理工学部に進み、将来起業するための人脈を広げるべく有名大学に入る目的はなんとか果たしました。大学卒業後の25歳でいよいよ起業して当初は順調な滑り出し。しかし、その後大失敗し、家も引き払い、妻と2人で銭湯に通う日々。それでも「波瀾万丈な人生を生きたい!」と清陵時代から考えていた最高の人生を歩み続けていると思います。「自反而縮雖千萬人吾往矣」という言葉は、今も僕自身の心の中心にあります。

30歳で渡豪 挑戦の学びは人生の財産



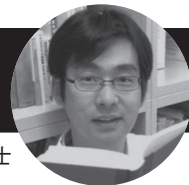
●豪州税理士、公認会計士
(オーストラリア ケアンズ在住)

小口 彰

岡谷市出身。清陵高校卒業後、明治大学商学部卒業。日航商事株式会社(現・ジャルックス)を経て、オーストラリア・クイーンズランド州ジェームズ・クック大学にてMBA取得。米国公認会計士、豪州公認会計士、豪州税理士資格取得。社会人になり、フリーダイビングを始め、2000年フランスで開催されたフリーダイビングワールドカップの日本予選で優勝し、男子日本代表としてフランス大会に参加。

ケアンズは世界遺産に指定されている熱帯雨林、同じく世界遺産のグレートバリアリーフが楽しめる観光名所です。オーストラリアに来てから、清陵時代にもっとしっかり英語を勉強しておけばよかったと本気で思いました。30歳で東京の仕事辞め、無収入のまま海外で学ぶことになったので不安でいっぱいでした。ただ、小さい失敗も数多くしましたが、自分で挑戦したこと学んだ経験は人生の財産です。

自分の心を震わせる 仕事に就く



●Aiクリニック院長、旭川科大学客員教授、医学博士

阿部 泰之(あべ・やすし)

諏訪市出身。旭川医大卒。整形外科医として骨肉腫などの診療にあたる。緩和ケアチームを立ち上げ、精神科を兼任もしつつ緩和医療専門医として診療教育研究に従事。2021年に訪問診療専門Aiクリニックを開業。医療者・介護者・福祉者のためのケア・カフェ代表、エッセンシャル・マネジメント・スクール講師も務める。

先日、母から手紙をもらいました。母からの荷物に走り書きが入っていることはあっても、本気の手紙は初めて。私に対する肯定の言葉ばかりが並んでいました。これまでの活動、とりわけ社会への働きかけについて、ちゃんと母は見てくれていたのです。私が小さな頃から、人が思いつかないようなことをやったり考えたりすると、誰よりも先に母が「すごいね」と言ってくれた。途中からは母を驚かせたいというのがモチベーションだったかもしれませんが。母から褒められ、少し前からまるで童心にかえったような気がしています。高校時代の自分に戻ったような気にもなります。「誰かが喜んでくれること、誰かがびっくりしてくれること、そして自分がわくわくすること、それに正直に生きればいいんだ」と、どこか吹っ切れたんですね。皆さんにもやりたいことや夢がたくさんあるでしょう。その中で打算やコストパフォーマンスを考えるのではなく、心が震えるような、胸の芯が熱くなるような、そんなことに正直に向かっていってください。



けいの家 八王子本店

東京都八王子市明神町3-9-1 ☎042-649-1724
月～金11:30～14:00、17:00～23:00、土17:00～23:00(定休日/日曜日)



けいの家 八王子みなみ野店

東京都八王子市兵衛1-1-10 ☎042-683-4987
火～土11:30～14:00、17:00～23:00、日17:00～23:00
(定休日/月曜日)



けいの家 日野駅前店

東京都日野市日野本町4-6-4 ☎042-586-0650
月17:00～23:00、火～土11:30～14:00、17:00～23:00(定休日/日曜日)



北藤ファーム

東京都八王子市明神町3-9-1
☎042-649-1854

月～土曜 11:30～14:30(油の火落とし
14:00)/17:00～22:00
※営業時間に変動がある場合があります。
(定休日/日曜日)

株式会社 開拓使

代表取締役 北澤秀彦(99回生)





あゆさわ るみこ
鮎沢 留美子

①岡谷東部中②株式会社インテジ
カスタマー・ビジネス・ドライブ本部
事業デザイン部 デ・サインリサーチ
グループ マネージャー③清陵高校に
入学してすぐ、諏訪湖で行われた「飲
迎乗艇」に感動し、当時はまだ存在し
なかった女子端艇部を仲間5人で立ち

上げる。毎朝5時に起き、岡谷から上諏訪のヨットハーバー
に自転車通学し、諏訪湖でのボートの朝練に明け暮れ、お昼
時間を待たずにこっそりお弁当を食べたことなど、とてもハ
ングリーで部活が中心の3年間だった。④現在は、マーケティ
ングリサーチ会社で、企業の新しい商品やサービス開発やイ
ノベーションを起こすための発想支援をしている。もともと
アイデアをたくさん出すことが好きだったこともあり、アイ
ディエーションや創発系のプロジェクトの企画監修〜運営に
情熱を注いでいる。⑤自反而縮雖千萬人吾往矣／好奇心⑥長
野の山登り。故郷の雄大な自然にあらためて魅せられている。



かねこ さいき みちこ
金子(佐伯)美智子

①富士見南中学校②大学卒業後、現・
日本総研に勤務。その後養護教諭の資
格を取得し、私立中学高等学校で保健
室を運営。40代でフリーの企画編集に
転身。以降、光文社・集英社など大手
出版社で全国誌の女性誌記事・イベント、
書籍を制作、ディレクションしている。

③天真爛漫そのもの。信濃境にあった極小規模中学校から進
学し、上諏訪までの通学、学校生活、友達、部活……何もか
もがエキサイティングで楽しくていつも笑っていました。休
日は早く登校したくてうずうずしている、学校大好きっ子。
部活は剣道部で礼節を学ぶ。④現在は企画編集をしているが、
四十路になってから本当にしたいことは何かに気が付いた、
遅咲きにも程があるタイプ。専門はライフスタイル、健康、食、
ヒューマン、ビューティー……と間口は広く、人間の普遍的
な価値観と変わりゆく時代や文化を捉えながら、心に響く企
画を考え監修し、視覚からも印象に残る美しい作品作りを心
掛けています。⑤いくつになっても人生は知らないことだらけ。
可能性がある限り新しいことにチャレンジしたい。⑥人をね
ぎらい自分を労り、ずっと笑って生きていきたい。蕎麦と日
本酒が好きで、蕎麦ソムリエの資格を取得。この故郷の名産
品に関わる何らかのプロジェクトができれば嬉しい。

清陵初!

100人超え女子の本音

活躍する
同窓生
89回生

1983年(昭和58年)に入学し、清陵初の100人超えとなつた89回生女子。自由な校風の中、「女子はこうあるべき」というしがらみを振り払い、破天荒で元気に過ごした高校時代を経て、今、たくましくしなやかに自分らしさを表現しながら生きる、エネルギーで魅力溢れる4人に本音を語ってもらった。

①出身 ②経歴 ③清陵時代の自分 ④今の仕事や生活で充実&大変な事は?
⑤自分が大切にしていること ⑥今後チャレンジしたいこと、目標。



ちの ゆみこ
茅野 由美子

①諏訪中②ロータリー財団奨学金で米
国シカゴに大学院留学。卒業後は諏訪
に戻り地元ベンチャー企業などで勤務後、
8年前からニューヨークの5番街にある
オフィスビルの管理会社で経理担当。

③入学直後の授業中、教育実習の先生
から男子生徒と勘違いされて「茅野君」

と呼ばれてから卒業までずっと男子枠(?)。クラスメートの女性陣に憧れていたが、「女子」であることを前面に出すのに抵抗があり、スカートをはいたのは両手の指で数えられるほど。友人と忘れ物を取りに、夜中にポロポロ校舎の窓から忍び込むという「ごた」もしたが、放送委員として放送室にこもっていたので周囲からの印象は薄かったと思う。本をたくさん読んで人生について真剣に考えて悩んでいたが、勉強はほとんどした記憶がない。④偶然ニューヨークで働くことになり、いまだに毎日がおおくりさん気分。有名人に遭遇したり、仕事帰りにコンサートや美術展に行ったりして田舎と違った刺激を受けている。高校時代、英語で赤点とってばかりだった私。海外での英語の仕事、生活するのに意思疎通に苦労し今となっては学生時代にきちんと勉強しておけばよかったと悔しい思いをする毎日。根深い人種差別、想像を超える経済格差にも驚いている。⑤ずるをしない。⑥残りの人生悔いのないように、元気なうちに旅行して5大陸制覇(現時点ではまだ2大陸)目指し、そのためにも体力づくりのトレーニングにそこそこ励んでいる。



はしづめ
橋爪 ゆか

①下諏訪中②東京藝術大学卒業、同大
学院オペラ科修了。文化庁オペラ研修
所第9期修了。文化庁派遣芸術家在外
研修員としてウィーン留学。94年二期
会「珠玉のドイツオペラ」での「魔弾
の射手」アガテで本格的デビュー。

近年では「ワルキューレ」ジークリンデ、

「さまよえるオランダ人」ゼンタなどで活躍。2019年秋には
新国立劇場「エフゲニーオネーギン」タチヤーナ役カバー
としてコンサートに出演。その他、第九、宗教曲などコンサ
ートにも多く出演し、今年7月には二期会オペラ公演ワーグナー
「パルジファル」クンドリ役出演。二期会会員。二期会ロシア
東欧オペラ・ロシア歌曲研究会会員。③高2の秋、せっか
くの人生なのだから自分がいちばん身近に感じることができ
るものを極めてみようと考え、声楽の道を志す。実のところ
は「この道で生きていこう」などという大きなものではなく、
好きな音楽の世界で自分がどこまでやれるのか試してみたい
という思いから始まった。今思えば良い指導者に恵まれた上、
クラス担任の小野先生の理解もあり何とか関門を突破するこ
うできたと思う。④オペラは日本において一般に受け入れ
られているとは言い難く、経済的に成り立たせていくことは
容易ではなかった。また華やかな表舞台の裏で常にプロフェ
ッショナルとしての高いレベルを求められ、仕事と家庭との両
立という課題も抱えたが、この仕事に挑戦し続けることで、
多くの人たちに感動を与え、同時に自分も成長をすることが
できるかけがえのないものと感じている。⑤音楽は世界のど
こでも簡単に言葉の壁を越えることができ、年齢や性別を選
ばず、時に勇気づけ、前向きにし、人生を実り豊かにしてく
れるものと信じている。⑥現在はソプラノからメゾソプラノ
に転向。これからまた新しい声種と向き合うことができるこ
とは大変幸せなことであり喜びである。

下社
山出し

下社でも4月の山出しはトレーラーで柱を曳行した(木落坂より) 撮影:八木勇三

下社
里曳き

5月の里曳き。「よいさ」の掛け声とともに、目の前を柱が滑っていく



里曳きで賑わう下社・春宮前に出現した規制線。氏子たちに配られたリストバンド(左上)を装着していないと境内には入れない

2022年(令和四壬寅年)御柱祭観覧記

コロナ禍で 原初の衝動取り戻す御柱

●取材・文/89回生 田中千浩
●写真/89回生 宮坂賢一

1200年以上の歴史を持つといわれる、7年に一度の諏訪大社式年造営御柱大祭(御柱祭)が新型コロナウイルス禍の中で催された。これまでの挙行回数は、200回余り。50代半ばの89回生にとっては、10回目。御柱の歴史の5%近くを生きてきたと考えると、にわかには歳を取ったような気分にもなる。

未曾有のパンデミックの下、今回の御柱は始まった。何事もそうだが、祭りの要諦も準備期間にこそある。準備不足となる中、人力での曳行で5月の里曳きを成功裏に終えた地元の氏子や役員ら関係者に心から敬意を表したい。

2022年5月26日付の長野日報によると、開催中の人出は約17万4,000人(諏訪地方観光連盟御柱祭観光情報センター)とみられ、186万人に達した前回の1割弱にとどまった。山出しが一般には非公開のトレーラー搬送となった。また里曳きでも、事前の健康観察やリストバンドによる大社境内への入場制限などが設けられたため、観光客も激減して経済的な恩恵は例年より縮小した。

それでも、祭りにかける諏訪の氏子たちの思いは衰えていなかった。それどころか、観客が減ったことで、古の諏訪人の原初的な叫びが、現代に蘇って聞こえてくるかのような感じがあった。下社里曳きで、魁塚手前の大曲がり(「秋宮四」)の柱がノンストップで進行していく圧

巻の光景を目撃した。私も激しい衝動に駆られ、言葉を失った。祭りとは、まさにこれだったのだ! 氏子たちの結束はコロナ禍で増していた。

かつて私が地元で暮らした頃の消防団仲間が、今では元綱長や斧長など、主要な立場で奮闘している姿もまぶしかった。秋宮三の御柱で大御幣持ちを担当した宮坂見介(89回生)君をはじめ、活躍された同窓生も多いだろう。

最後に、前回(2016年)の御柱祭の良質なドキュメンタリーがインターネットで視聴できるので、紹介しておきたい。東京キー局の番組では、上社と下社の映像を切り貼りしたような粗い演出が

目立つこともあるが、この番組は氏子へのリスペクトが感じられる。

<https://www.redbull.com/jp-ja/episodes/onbashira-archaic-festivals-s01-e03>

御柱の番組



氏子たちが乗り、立ち上がる前宮四の柱



建御柱が終了し、「感謝」の垂れ幕が降りた前宮二の柱

現代美術家、松澤宥生誕100年に「ひととはなにか」を考える

「人類よ 消滅しよう」と 先輩は言った



86回生 林 聡一
スワニズム美術部
松澤宥生誕100年祭 実行委員長



「消滅の幟」第10回現代美術展 人間と自然
東京都美術館 1971】 撮影：羽永光利

「人類よ 消滅しよう 行こう行こう (ギャティギャティ) 反文明委員会」

これは、下諏訪町生まれ、「観念/概念芸術の父」といわれ20世紀の日本現代美術を代表するアーティストの一人である松澤 宥さん(1922-2006)の傑作「消滅の幟」のメッセージです。

松澤さんは、旧制諏訪中学出身の40回生。2022年2月2日に生誕100年を迎えられ、リニューアルされた長野県立美術館(旧信濃美術館)で大規模な回顧展(2月2日~3月21日)が開催され大好評を博しました。

偉大な先輩のことをよりたくさんの方、特に諏訪や清陵に関係する皆さんに知ってもらおうと同窓生がコアメンバーの同好会「スワニズム」の「美術部」で、大回顧展と同時期に下諏訪・上諏訪まちなかと諏訪湖博物館で「松澤宥生誕100年祭」を実施しました。松澤さんの財団、県立美術館、下諏訪町や商工会



「消滅の幟 ユートピア&ヴィジョン展 ストックホルム近代美術館1971】 撮影：松澤久美子

議所、下諏訪町・諏訪市のお店や宿泊施設など多くの方々に協力いただき、おかげさまでこちらも大きな反響を得ることができました。

今号の特集テーマ「ひととはなにか」に因み、彼はなぜ冒頭のような過激とも言えるメッセージを発したのか、その意味するところは? を考えたく、まずは松澤さんについて簡単にご紹介いたします。

旧制諏訪中学での親交と学び

松澤さんは1922年2月2日生まれ。旧制諏訪中学には1934~39年に在学しています。生涯の親友であった詩人の青木靖恭さんをはじめ友人に恵まれ、日本を代表する仏教学者であった宮坂宥勝さんとも同級生でした。松澤さんの芸術には密教が影響していると言われますが、宮坂さんとの交友が刺激になったことは疑いがありません。また、在学中に三澤勝衛先生が逝去されており、その統合的な知への志向には大いに影響を受けたことが想像されます。

(三澤勝衛(1885-1937):旧制諏訪中学の教諭、地理学者。総合的で独創的な風土論を展開。清陵高校敷地内「三澤勝衛文庫」には膨大な研究資料が収められている)

戦時中の早稲田大学で、松澤さんは建築を専攻。学徒出陣の世代で理科のため出征を免れましたが、中学時代の友人の半数近くが戦争で亡くなり、その経験は後々まで深い影響を与えました。

諏訪から世界にアートを発信

戦後大学を卒業し、数年間東京の建築事務所に勤めた後に帰郷、その後米国でフルブライト交換教授として研究生活を送った2年間を除き人生のほとんどを下諏訪町で過ごしました。諏訪実業高校定時制の数学教師として一町民として生活しつつ、一方でアートを世界に向けて発信し続け、その活動とネットワークは諏訪から世界中に広がり、海外の著名アートフェスティバルに多数出展・評価されるという、インターネット以前の時代にはおよそ考えられないことを実現。1976年には「現代アートのオリンピック」とも言われるヴェネツィア・ビエンナーレに日本を代表して出展するなど、20世紀では数少ない国際的に知られた日本人アーティストの一人でした。

下諏訪の自宅のアトリエは「^ψの部屋」と呼ばれ、国内外から多くのアーティストや芸術関係者が訪れる伝説の場所でした。松本出身の後輩アーティスト草間彌生さん^{くさまやよい}もここをよく訪れていらっしやっただけです。

松澤さんは、芸術と知の領域を横断/越境し変化し続けた人でした。詩人として芸術活動を始め、1950年代~60年代前半は絵画やオブジェ作品を発表して前衛芸術家として名を馳せていましたが、1964年・42歳の時真夜中に「オブジェを消せ」との声を聞き、以後言葉だけを使ってアートを表現しようと

決意したと言われています。現代美術史上有名な「観念芸術宣言」です。「日本概念派」の始祖とも呼ばれ、ほぼ同時期に米国で起こった「コンセプチュアルアート」との同時代性ととも、オリジナリティの高さが世界的に評価されています。その後も「言葉／観念のアート」を伝えるために、「広告」「チラシ」「ハガキ」を使ったり、展覧会やプロジェクト自体を「作品」としたり、数多くのパフォーマンスを行うなど様々な方法で2006年に84歳で亡くなる直前まで多彩な表現を発信し続けました。

そのアートの背骨となったのは世界中のありとあらゆる知の貪欲なまでの探索と越境的思考です。アーティストであると同時に数学教師でもあった松澤さんは常に最先端の科学知識をアップデートしていました。1950年代にすでにコンピューター科学／サイバネティクスや量子力学について言及しています。米国コロンビア大学大学院では宗教哲学を研究し、密教をはじめ様々な宗教にも精通。諏訪信仰についても探求し、作品に影響が指摘されています。その上パラサイコロジー（超心理学：テレパシーなど超能力を科学的に研究する学問）やUFOの存在など、所謂「超常現象」への興味も生涯持ち続けました。

「人類よ 消滅しよう」とは？

そんな松澤さんの代表作とも言われる「消滅の幟」。長さ20メートルほどの長大なピンク色の幟に冒頭の衝撃的なメッセージが書かれています。1966年に初めて世に出され、生涯に渡り世界中で数十回展示され、多くのパフォーマンスに使用されました。

この作品／メッセージにどんな意味があるのか。様々な解釈があり得ますが、大きくは2つの方向が考えられると思います。文字通りの「人類への絶望と虚無主義」か「救済としての警鐘（檄）」か。前者からは、核兵器をはじめとする科学技術の暴走や経済至上主義による地球環境破壊に象徴されるように、人類は地球や宇宙にとっての余剰である、消滅すべき、あるいはいずれ消滅する、と読める。ちなみに松澤さんは環境問

題について早くから危機意識を持ち続け、最晩年の作品「80年問題」でも既に2000年代前半にCO₂（二酸化炭素）による「人類滅亡」を語っています。

一方では、そうした現実を超え新たな世界を作っていかななくてはならない、人間は変わっていかななくてはならない、というメッセージとも読める。「ギャテイ（羯諦）」とは、般若心経に出てくる言葉で、一説には「彼岸へ行こう」といった意味を持つそうです。早くこの物質文明を捨てて、彼岸——悟りの世界に到達しよう、といった意味にも捉えられるかもしれません。

アートに解答はありませんし、松澤さんご自身もこのメッセージを両儀的に考えられていたようです。根底には戦争で多くの友人を失った絶望的な経験を経て、世界大戦という化け物を産み出した近代西洋合理主義と人間中心主義に対する根源的な批判精神がありました。同じ1966年、哲学者ミシェル・フーコーは著書「言葉と物」の最後に「人間は波打ちぎわの砂の表情のように消滅するであろう」と記し「『人間の死』を予言した」と言われました。フーコーは西洋近代の思考パラダイムの変換が進み「人間」という概念が変化・消滅していくことを示唆したと言われています。同時代に近現代の人間の在り方への根源的批判・見直しが東西の先端的なアーティストと思想家に共通していたことは興味深いです。

諏訪っばい、諏中／清陵っばい!?

ところで幟^{のぼり}といえば、清陵同窓生の多くは親しみを感じるはず。思い出すのは清陵祭など、ことあるごとに立てられた「自反而縮雖千萬人吾往矣」やクラブの幟。調べたところこうした幟はすでに大正時代にはあったらしく、松澤さんも諏中時代にきっと目にしており、そこから発想を得たのかもしれませんが。

松澤さんを知れば知るほど、「諏訪っばい」そして「諏中／清陵っばい」と思います。反権威、反中央、反骨精神。理系と文系^{げき}の共存。幟で檄を世界にと

ばず、なんてその最たるもの。御柱祭も大好きで、ご自分でも木遣りを鳴いていらっしやっただけです。

今回100年祭では、「観念芸術」の代表作だけでなく、長い間公開されていなかったそれ以前の多くの絵画を展示し、美術関係者や一般の皆さんからも多くの反響をいただきました。また長野県立美術館での回顧展では、従来なかった規模と密度で初期から晩年に至る作品と資料が網羅され、初めて全体像が提示されたといつてよいと思います。あまりに時代に先んじていたために、これまで評価が追いつかなかったと言えるかも知れません。本稿では紹介し切れませんが、松澤さんはコレクティブな（共同で作る）創作活動にも長けており、これも現代を先取りするところ。今後研究が進むにつれ評価はさらに高くなると考えられ、願わくは、諏訪地方に彼の仕事・作品を常時見られる場所を作りたいところです。

松澤さんは「美術とは、仮説を立てて実験することだ、実験そのものが作品で、創造というのは問題提起である」とも言っています。彼の存在自体が、私たちと未来への巨大な問いなのかも知れません。人間とは、ひととは、消滅すべきものなのか。あるいはいずれ消滅するにせよ、私たちはどう生きるべきか。21世紀の最初の大きな戦争の時代に、松澤さんの大きくて過激な問いが私たちに突きつけられています。

*松澤宥さんについてもっと知りたい方は、手始めにこちらのウェブサイトまで。

・「松澤宥生誕100年記念サイト」
<https://matsuzawayutaka.jp/>



・「長野県立美術館 生誕100年松澤宥」
<https://nagano.art.museum/exhibition/matsuzawayutaka>
(関連イベントの動画配信がおすすめです)



・「松澤宥プサイの部屋」
<https://www.matsuzawayutaka-psiroom.com>



母校連携
企画

令和3年度 諏訪清陵高校 キャリア講演会

【キャリア講演会概要】

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、例年実施されていた同窓生によるキャリア講演会が中止となりました。今年度は1年次に実施できなかった2年生と1年生を合わせてオンラインによるキャリア講演会を実施することとなりました。生徒は複数の教室に分散し、前後半で2つの分野の講演を聴くという形式をとりました。当日は10名の講師の方々がGoogle Meetを使用して講演を行っていただきました。中でも海外在住の方から講演していただくことが可能となったのはオンラインの良い点でもありました。講師の方々、事務局の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

【キャリア講演会総括】

生徒からは自分自身のキャリアプランニングの一助となったとの感想が多く見受けられました。対面による講演の利点もありますが、講師の方々も生徒に分かりやすいスライドを用意していただいたり、海外からも講演をいただけるなどオンラインならではの講演の在り方を探るといふ点では今年度の取り組みは一定の評価ができると感じました。一方でZoomとは異なるオンライン会議のツールにおける接続や音質の状態などオンラインならではの対応の難しさもありました。次年度以降もコロナウイルスの感染状況によりオンラインとなる可能性もありますが、社会で活躍されている同窓生の講演は生徒のモチベーションのアップにもつながるため、ご協力をお願いいたします。

(令和3年度 キャリア講演会担当阿部秀幸)

【講師をされた方から】

●清陵時代は文化祭実行委員長を務めるなど思い入れは強いので、キャリア講演はうれしい経験でした。話した内



容はキャリアを重ねる中での失敗談が中心。アナウンサー試験に落ち続ける中で気づいたのは「納得した人生を歩めるか」の大切さでした。テレビ離れといわれる時代でも多くの清陵生が質問をしてくれ、今の仕事に誇りをもつことができました。夢を追うとき、今回の話が参考になったらうれしいです。私もまだまだ目標の途中ですが、いつか仕事で後輩と会える日を楽しみにしています。

(気象キャスター、フリーアナウンサー
108回生 佐藤圭一)

●キャリア講演会では「自分で決める」ことを大事にしてほしいと伝えることをテーマの中心にしました。今回はオンラインであったため生徒の一人ひとりの表情を見ることができなかったため、伝えたいことが伝わっているか不安も

ありましたが、感想文を見ると、伝えなかったことを理解してくれた子もいて、役目は果たせたかなと安堵しました。後輩たちの未来が明るいことを願います。

(秩父新電力 118回生 帯川恵輔)

【生徒感想】

①畑中美帆さん(日本製紙)

・畑中さんの講演を聞いて、清陵生の特徴として明確な意思表示ができるということをおっしゃっていましたが、今の清陵生にはそういった勢いが昔に比べてなくなってきている気がします。今の清陵生にも意見が言えない人はたくさんいますし、そういった清陵らしさというのが失われつつある現状はなんだか悲しく感じてしまいました。また、興味ややりたいことが多方向に向いている人は、その分人生も楽しんでいけ

「キャリア講演会」講師一覧

業種分類	氏名	回生	会社名、所属
メーカー	畑中美帆	114	日本製紙
	大内春菜	114	JR西日本
	川村知生	105	古河電気工業
金融	秀島真奈	117	三菱UFJ銀行
	平林 怜	115	金融業(独立)
	間宮 薫	107	KPMGあずさ監査法人
広告・出版・マスコミ	佐藤圭一	108	アナウンサー、気象予報士
	清水憲司	97	毎日新聞 記者
大学・官公庁	藤森賢也	94	京都大学産学連携本部
サービス業	帯川恵輔	118	秩父新電力

るのだということを感じ、自分が少しでもやりたいと思ったらやってみると人生が充実していくと感じました。

②大内春菜さん (JR西日本)

・東大からJRと言うエリートのような道を進んでいる講師の方ですら、将来の方向性を決めるのは遅い方だったという事はすごく意外でした。自分が将来やりたい仕事を高校生の時に決めるのは、私自身もすごく難しいと感じているので、将来の選択肢を増やすためにも大学や学部選びは、自分の本当に興味のあることは何なのかを具体的に見極めていく必要があると感じました。

③川村知生さん (古河電気工業)

・3つほど大切なことを話してくれましたが、特に大切だと思ったのはT型人間になるということでした。浅く広くとるのも大切だけれども、さらに深化・深くとることも大切だということを感じました。それから多様性を大切にすることという事と、お互いの利害を合わせるということを知って大切だと思いました。多様性を受け入れれば壁がなくなり利害を一致させればお互いwin winになることが大切だと分かりました。

④秀島真奈さん (三菱UFJ銀行)

・海外留学に興味があって秀島さんの話を聞きたいと思い希望しました。特に高校時代に留学した経験があることを知って、いったいどのように受験勉強と語学の勉強を両立していたのだろうかと思いました。講演の中で秀島さんがドイツに行きたいと感じたきっかけや、さまざまな先生方の協力のもとにドイツ語を勉強していたこと、そして、学生時代の猛勉強の様子を聞くことができました。何よりも高校時代に留学することの利点を知ることができたの

は大きかったです。大学生として留学するよりもアットホームな環境でよりその国の文化を感じられるのだそうです。なんとなくいつかは海外に行きたいと思っている私には良い刺激でした。

⑤平林 怜さん (金融業)

・平林さんの講演では証券会社の仕組みを知ることができました。お金を貸す側と借りる側とを繋ぐ大切な職業だと思いました。他にも大切な役割がありました。新規開拓という仕事を自分を気に入ってくれるお客さんを作る本当に難しい仕事だと思いました。またノルマのある世界も厳しいなと思いました。世界各国のGDPの向上も早いと分かりました。自分自身に価値をつけることが必要だと分かりました。

⑥間宮 薫さん (KPMGあずさ監査法人)

・間宮さんに対しても海外留学というワードで選ばせていただきました。「語学は語学だけではない」その国の文化も知っていないと会話が成り立たず苦労したという経験をお聞きしました。また学生時代にやっておくべきこと、やって良かったことを伝えていただいて今やれることをもっと精一杯頑張ろうと思いました。間宮さんの言語が好き、大学の環境が最適、授業が楽しくて楽しくて…という言葉が印象的でした。

⑦清水憲司さん (毎日新聞)

・清水さんのお話の中で普段聞くことがない新聞記者の仕事の話が聞けて、とても有意義でした。毎朝読む新聞で事件・事故などを調べて記事にしたりする苦労などを知ることができました。講演の中でさまざまなことに興味を持つ大切さなど分かりました。また、自分で調べて考えていくことや高校生からできるような学習や部活動などあ

らためて大切であると感じました。

⑧佐藤圭一さん (アナウンサー)

・慢心・情報不足・思い込みが失敗につながると言っていたことをしっかり覚えておこうと思いました。自己肯定感が大切だなと思いました。ネガティブになりすぎることもよくないし、いけるだろうと軽く考えすぎることもよくないと感じました。夢を追い続けられるかどうか自分と向き合えるかどうかが進路選択やこれからの私の人生において大切なことだと思いました。とにかく今はいろんなことにチャレンジしていきたいと思いました。

⑨藤森賢也さん (京都大学産官学連携本部)

・体一つで生きられる頭脳と経験、どんな時でも生きられる人間になりたいです。確かに仕事のキャリアを積む上で大事な心構えだと思います。今の大学に入りたての時は若手として、いろいろな仕事に携わってほしいです。大学の研究成果を産業界につなぐ、大学の研究成果の特許を使う企業に渡して収入を得るのは自分の好きなこと興味があることに専念できるし、社会の役に立つ実感があってやりがいを感じられそうです。高校生のうちにたくさんこのことを見たり聞いたり触れていきたい。

⑩帯川恵輔さん (秩父新電力)

・最初から1つの選択肢だけを見るのではなくて第一希望として考えて他の大学や学部をもっと調べた方がよいと思いました。言われたことがしっかりできているだけだとダメで、社会ではこれが答えですと言うのはないから、自分の行動に責任を持って自分の考えを大事にしたいです。ここでしかできないこともあるから、今のうちにいろいろ経験していきたいです。



株式会社 **リライト**

佐藤 吉英(89回生)

Tel . 03-6279-7744
〒177-0051 東京都練馬区関町北5-15-25
Mail : sato@relite.co.jp
URL : http://www.relite.co.jp

不動産売買
買取専門

不動産免許 東京都知事(2)第95190号
建築業免許 東京都知事(般-3)第145065号

東京清陵会 御用達の店

八重洲 扇寿し

東京都中央区八重洲1-5-8 扇ビル 1F 2F
☎ 03-3271-8508
営業時間 / 11:00~13:40、17:00~22:30
(定休日 / 日、祝日)

小林誠三(55回生)



オンライン 大学模擬講義 開催報告

2021年度の母校連携のトライアルイベントとして、「大学授業オンライン模擬講義」を開催しました。その経緯を報告いたします。

<はじまり>

そもそもの発端は、2021年の総会幹事を務めた88回生の中に大学教員が多く、同窓会の企画会議の中で「コロナの影響で、リアルな大学見学に行きにくくなっている現役生に直接大学や学生生活についてアドバイスできないか?」というアイデアが持ち上がり、企画が始まりました。88回生の同期が学校長を務めていることもあり、「トライアルで実施させてほしい」と企画を持ち込んだところ、快く受け入れてもらい、開催の運びとなりました。

<開催に至るまで>

88回生からの講師は早くから5名が確定していたものの、文理のバランスを考えて上下の学年に声をかけ、87回生、89回生にも講師を務めていただき、計7名による講義を計画しました。内容は、大学で実際に行う講義や大学の紹介だけでなく、自分自身の学校選択や受験勉強の話も盛り込んでもらうことにしました。講義内容や各講師の略歴などはあらかじめ一覧表にして、生徒さんに希望の講義を選んでもらいました。

本来であれば、高1生が文理選択をする秋ごろに開催をしたかったのですが、コロナの感染拡大による学校行事の日程変更や分散登校などがあり、度重なる延期の末、年度が変わった2022年4月7日にやっと開催ができました。

<開催～開催後のやりとり>

4月7日当日は、オンラインで録画視聴とリアルタイムでの講義となりました。約270名の生徒さんは教室に分散して受講していただき、その後、質疑応答の他にグーグルフォームを使って、感想や質問を記入してもらい、まとめたものを各講師に送付、各講師より回答をもらうという形でやり取りをしました。

第1回目の講師と講義内容一覧

講師名(回生)	講義タイトル
日本大学文学部化学科 藤森裕基 先生(88)	科学で考える、手作りチョコレートはなぜ美味しくないのか
筑波大学医学部 木澤義之 先生(88)	重い病を持つ人をどう支えたらよいか?
獨協大学国際教養学部 野澤聡 先生(88)	「文系と理系」のこれまでとこれからを考える
慶應義塾大学体育研究所 村山光義 先生(88)	体育学講義:スポーツ進化論 スポーツとは何か
神戸大学大学院理学研究科 青沼仁志 先生(88)	昆虫が超高速運動を生み出すからくり
同志社大学文学部 藤森 寛 先生(89)	「実践理性の能力について —実践理性の三つの使用法と実践的問いの三つの主題—」
日本福祉大学福祉経営学部 藤森克彦 先生(87)	家族の支え合いが弱まる中で、新しい「支え合い」のカチを 考える一人暮らしの増加を中心に—

生徒さんからの感想や質問は非常に質が高く、講義を真剣に聞いてくれたことがよく分かる内容で、講師の先生方も感銘を受けていました。

実際に講師を務めてくださった先生からも以下のような感想をいただきました。

「長く返事を書く気はなかったのですが(苦笑)、学生さんが書いてくれたコメントを読んでいたら、きちんと返信をしたいと思います。今回はよい機会を与えていただき、心より御礼申し上げます」(87回生 藤森克彦さん)

「全体として、熱心に視聴してもらえた、という印象を持ち、また、生徒の皆さんのお役に立てたのではないかと感じました」(89回生 藤森寛さん)

<開催をしてみよう>

模擬講義をトライアルで実施し、オンラインではありましたが現役の清陵生と接する機会を持てたこと、また双方向で中身の濃いやり取りができたことで、今後の開催への大きなヒントに

もなりました。今年度も10月に開催予定となりましたので、さらに興味関心のある講義を増やす、今までの講義内容を蓄積するなど、より現役生の力とされるように形作っていきたいと思います。また、大学で教鞭をとる同窓生の皆様にはぜひ講師を務めていただきたく、「講師をしてもいいよ」という方は、事務局までご一報ください。

(88回生 佐藤美智子)



翌日の長野日報でも取り上げていただきました

母校生徒
交流企画

2021年の清陵祭 「同窓会の魅力を知る部屋」に出展

～第71回清陵祭参加報告(2021年7月3日-4日)～

2021年の清陵祭への同窓会による出展は2回目。89回生が担当し、コロナ禍により来校者を制限しての開催となりました。

22年の幹事学年である89回生のほぼ最初の仕事として、清陵祭展示を担当することとなりました。2019年に同窓会による出展を最初に担当された87回生の先輩方からの引き継ぎ内容をもとに、手探りでスタートしました。コロナ禍でオンラインでの打ち合わせが増えましたが、そのおかげで諏訪・東京・名古屋など場所を問わずに相談できました。来場者に対する同窓会の理解を深めようと知恵を絞りました。

21年7月の開催当日は地元・諏訪の仲間たちが中心となり、展示物の掲示・DVD上映、さらには学友会役員の方々との交流など工夫した運営に挑戦しました。中でも廊下に掲示した「活躍する89回生」の記事には多くの来場者が目を留めていただき、同窓会の存在を少しでも感じていただけるきっかけができたように思いました。

また、それ以上に我々89回生が在学当時の楽しさを思い出せ、準備段階では数十年前のワクワク感がよみがえりました。オンライン会議や協力しての作業で懐かしい仲間との再会ができ、同窓会幹事を務める今年に向けて、よ



い機会ができたと思います。今後も同窓生と現役生がリアルにつながるイベントの一つとして、また幹事学年の最初のイベントとして、清陵祭を楽しく活用できたらいいと思います。

(89回生 吉中宏子)

本部女性部のイベントにぜひご参加を! 10月に諏訪神仏拝観

東京清陵会の皆様、こんにちは。日頃より女性部の活動に、ご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

本部女性部は、東京清陵会女子会の皆様の活動・活躍を見習い、追随する形で2018年に設立しました。女性会員の同窓会参加を増やし、女性ネットワークを構築することを目的に、全支部へのご挨拶回り、新年会、セミナーやワールドワーク、女性部総会をはじめとするオンラインのイベントなど、コロナ前もコロナ禍の間も試行錯誤しながら活動してきました。

「女性部は同窓会活動の中に自然に溶け込み発展的解消を遂げる」という将来像の下で活動を続け、近年は男女を問わず同窓会員にご参加いただける集まりとなっています。

持ち込み企画も歓迎しています。今年4月の女性部オンライン総会では、定期的なイベントのほか、諏訪湖周ウォーキング&サイクリング、美術館巡りなど、

地元を離れている会員の皆さんが気軽に参加できるイベントの提案もありました。今後実施の検討を進めますので、ご希望のイベント企画などがありましたら、事務局までぜひご連絡ください。

事務局の連絡先

Seiryoseibu@yahoo.co.jp

諏訪清陵同窓会女性部事務局 小口理子

(諏訪清陵高校同窓会本部 女性部長
78回生 小尾順子)

諏訪神仏プロジェクト・拝観あるき

2022年10月16日(日)
定員20名、リアル開催予定

内容説明

上社&下社いいとこどりコース(マイクロバス使用の1日コース、詳細は9月確定)

集合場所

ご都合のよいほうをご利用ください。

(1)茅野駅(8:43上りあずさ12号、

9:08下りあずさ1号)

(2)諏訪市博物館

拝観場所と拝観内容(予定)

①諏訪市博物館企画展・常設展。上社五重塔本尊。上社神宮寺模型

②諏訪大社上社本宮参拝・御朱印。上社神宮寺遠望

③佛法紹隆寺参拝・御朱印。上社本地仏はじめ6体ほか什宝(じゅうほう)
(佛法紹隆寺の庫裡をお借りしてお弁当による昼食)

④諏訪湖博物館・赤彦記念館企画展。春宮本地仏と神宮寺住職家什宝、下社神宮寺図

⑤諏訪大社下社秋宮参拝・御朱印。下社神宮寺遠望

⑥平福寺参拝・御朱印。秋宮三精寺、春宮鑑照寺の仏像6体

⑦照光寺参拝・御朱印。秘仏下社本地仏をはじめ、仏像9体(脇侍含む)

拝観後、岡谷駅で解散(16:46上りあずさ46号、17:20下りあずさ33号)。

諏訪神仏プロジェクトHP詳細はこちら
<https://suwa-tabi.jp/feature/suwa-shinbutsupj/>
(10月1日 土曜日～11月27日 日曜日)



2021年度 東京清陵会 オンライン同窓会開催報告

清陵のイマを知り、同窓生の言葉に耳を傾け、明日を語り合おう！
東京清陵会 2021年度オンライン同窓会

「諏訪式」で考えるコロナ後の世界 新しい幸せを どう作るか？

2021年10月3日(日) 14時~16時30分 ZOOMで開催

コロナで世界が激変している今、これから進むべき道と何を目指すか？
2020年に発表された、小倉美恵子さんの著書『諏訪式』で語られる諏訪人の気質は「コロナ危機後の社会を
考える意味で示唆的」とも言われる。何万年も前から、日本が大きく変わる時代に、多くの個人や企業を輩出し
てきた諏訪地方。次の幸せに眼差しを向け、新しい社会をどう作るか、自分たちの中にある「諏訪式。」を再認識
し、自分と何ができるかを、見つめてみよう。

CONTENTS

(はじめに) 東京清陵会会長・役員あいさつ
【第一節】 これからの時代に必要なのは「諏訪式」とは？
『諏訪式』の著者小倉美恵子さんに本イベントのために
行ったインタビュー(08時)を収録し、コロナ後の世に
必要とする人を見ます
【第二節】 私たちが『諏訪式』で学んでいることは、
88回生にもっとも関係が深い「諏訪式」を語って
もらい、その先にあるコロナ後の新しい社会を展望し
ます
【第三節】 同窓生と語り合おう！(グループ交流)
オンラインでグループに分かれて語り合います。
第二節の感想、あなたの「諏訪式」とは？ etc...
参加者同士が交流を深め合います。

【第一節】 『諏訪式』の著者、神戸大学経済学部の小倉美恵子さんに本イベントのために行ったインタビュー(08時)を収録し、コロナ後の世に必要な人を見ます
【第二節】 私たちが『諏訪式』で学んでいることは、88回生にもっとも関係が深い「諏訪式」を語ってもらい、その先にあるコロナ後の新しい社会を展望します
【第三節】 同窓生と語り合おう！(グループ交流) オンラインでグループに分かれて語り合います。第二節の感想、あなたの「諏訪式」とは？ etc... 参加者同士が交流を深め合います。

お申込み方法 お申込みには3つの方法があります。

1. 会報に同封のハガキにて申し込み (メールアドレスは必ずお知らせください)
2. メールにて申し込み (お名前、お住所を明記ください) tokyoseiyu2@gmail.com
3. 専用オンラインフォームにて申し込み (QRコードのURLにアクセスしてお申し込みください) <https://forms.gle/1CrrkoGcZzmbR56> ※QRコードからもOK!

※お申し込みの際は必ず、自分の連絡先をメンバーにてご入力ください(「個人」の「お問い合わせ」欄に必ずご入力ください)
※お申し込みの受付期間は9月15日(日)までです(延長の可能性はございません)
※お申し込みの受付期間は9月15日(日)までです(延長の可能性はございません)
※お申し込みの際は必ず、自分の連絡先をメンバーにてご入力ください(「個人」の「お問い合わせ」欄に必ずご入力ください)

お申し込み先 tokyoseiyu2@gmail.com (ご登録番号 88 000)

新型コロナウイルス感染症拡大が長引く中、2021年度の幹事学年である88回生は、初のオンライン同窓会の開催を企画し、対面での総会・懇親会に変わる新たな同窓会に挑戦しました。オンライン会議ツールのZoom Meetingを利用し、度重なる企画会議からリハールにいたるまで、運営側の役員の皆様・幹事メンバーの誰とも一堂に会することなく、自宅や職場から個々にパソコンやスマートフォンなどの画面に向かい、企画を進めました。

そんな、コロナがもたらした新たな会合形式の中、『諏訪式』で考えるコロナ後の世界—新しい幸せをどう作るか』をテーマに講演会とグループディスカッションを実施しました。事前の参加申し込みは152名、当日の参加者が122名でした。対面で行われた2019年の参加者が192名であったことを考えると、やや小規模に感じますが、オンラインの良さとして、東京支部以外からの参加があり、新たな交流の形が見えました(東京支部:102名、長野県内:26名、関西支部:6名、東海支部:2名、海外:1名※事前登録情報より)。

また、参加者の年代は48回生の1名

を筆頭に、50回代3名、60回代29名、70回代31名、80回代73名(内幹事年88回生27名)、90回代9名、100回代6名(※事前登録情報より)となり、55歳以上のシニア層が9割を占めました。依然、若い世代の参加が少ないという課題は残りますが、還暦を越えても多数の方がオンライン参加できることが分かりました。「流石、清陵！」といったところでしょうか。

講演会ではまず、『諏訪式』の著者小倉美恵子さんへ「これからの時代に必要なのは『諏訪式』とは？」と題してインタビューを収録した映像を見ていただき、これからの世に向けた諏訪人気質とは何かを考えました。

続いて「私たちが『諏訪式』で切り拓いてきた道—88回生によるミニ講演会」と題して、神戸大学医学部特命教授の木澤義之さん「緩和ケアで病や死を怖くないものにしたい—日本にひらく緩和医療の道」、eavam 共同代表・コンテンポラリーダンサーの花岡安佐枝さん(タイ在住)「事と物の根源へ—タイで思い出すこと—」、獨協大学国際教養学部准教授の野澤聡さん「三澤勝衛先生との出会いと再会—『二つの文化』再統合を目指して—」の3名がそれぞれの道を熱く語りました。続くグループディスカッションでは、参加者を5~6名のグループに自動的に振り分け、交流を深めました。

イベント終了後、オンラインのアンケートフォームから回答いただいた意見・感想から、イベントの内容そのものについては、総合的に高い満足度が得られました。小倉さんのインタビューについては、『諏訪式』への気づきと諏訪を外から語ってもらったことへの感謝を表す回答が多く、また3名のミニ講演会についても、それぞれのテーマの深さを理解したポジティブな感想が寄せられ、コロナ禍に見えてきた未

来への課題を考えるきっかけとなったのではないかと思います。グループの交流でも、新たな試みとして「世代の違う人と交流できた」「活発に話ができた」などの理由で概ね好評でした。

しかしながら、前段のミニ講演会に熱が入りすぎ、グループディスカッションの予定時間を短縮することになってしまったためグループの人数を減らして、短時間でも多くの発言を引き出せるように対応を変えたのですが、グループ内構成の偏りやメンバーの退出などで十分に楽しめなかったグループもありました。開催前には細かなチェックポイント、シナリオ作成、リハーサルまでオンラインの打ち合わせを重ねていましたが、限られた時間内でしっかりとコントロールした企画を提示することは難しく、オンラインイベントにおける課題として今後の発展・改善に活かれば幸いです。

最後に、幹事年の責任を果たすべく、3年ほどかけて同期の輪を再構築し、また多くの同期・同窓生からwithコロナとpostコロナを考える上での刺激をもらいました。当番幹事になることはプレッシャーでもありましたが、非日常的な楽しさを味わうこともできました。久々に同期だけでひとつのイベントを作り上げるのもなかなか楽しいものです。社会人になって培った各々の知見や技術を持ち寄り、自分たちなりの企画を作る醍醐味が実感できました。幹事メンバーは皆、この時間に忘れかけていた“清陵”を思い出し、勇気づけられ、新たなエネルギーを得て、再び歩き出しています。パンデミックがもたらした「ミラクル」か、いや同窓会活動に内在する「ミラクル」として、この想いを同窓生と共有していくことが「新しい幸せを作る」ひとつの答えなのかもしれません。

(88回生 村山光義)

総会その後—小倉美恵子さんを訪ねて—

2021年総会でのインタビューをきっかけに始まった『諏訪式。』の著者小倉美恵子さんとの交流。実は小倉さんよりインタビューの謝礼を「2021年9月の茅野市の土石流災害の復興に充ててください」とお申し出いただき、寄付をさせていただいたお礼も兼ね、守矢副会長とオフィスにおうかがいしました。2022年は小倉さんの新作映画「ものがたりをめぐる物語」前後編がいよいよ公開。小倉さんと映画を撮られた由井英監督に新作映画についてもうかがいました。新作映画のモチーフは諏訪大社の縁起物語とされる「甲賀三郎」伝説。『諏訪式。』に続き、再び諏訪が取り上げられています。由井監督によれば「この映画は諏訪を起点として、東日本大

震災に見舞われた陸前高田などをめぐってまた諏訪に戻ります。これまでの日本の歩みを紐解くための手掛かりとして象徴的に甲賀三郎伝説を使用しました。映画を通じて一人ひとりがこれからの考えるきっかけとなればいいと思っています」

とのこと。小倉さん&由井さんの温かい視点は、見る側に多くの示唆を与えてくれます。

「ものがたりをめぐる物語」は前後編に分かれています。オンライン配信で



写真左から、佐藤美智子、守矢副会長、小倉美恵子さん、由井英監督とともに。バックにある絵は、由井監督の故郷である川上村から見た八ヶ岳で、画家である由井監督のお母様の作品だそうです(小倉さん事務所にて)

鑑賞できますのでぜひご覧ください。前編は公開中。後編は今秋公開予定です。

<https://www.hometownnote.com/post/102>

(88回生 佐藤美智子)



第8回 ミドル交流会

2021年11月27日、第8回ミドル交流会(オンライン開催)を開催しました。

2022年につながる第一歩とすべく、22年度幹事学年の89回生として、総会イベントや会報編集も想定した共通テーマ「ひととはなにか」を掲げました。この壮大なテーマで様々な企画を進めることは、この会報も含め89回生の大きな課題となっています。まずこのミドルの会では、「ひととはなにか」を「立ち止まって考える」とサブテーマを定めました。新型コロナウイルス感染拡大に直面して生活が激変する中、一度立ち止まり、見過ごしてきたものは何かを考えてみようというわけです。

第1部は、3人の講師(いずれも89回生)にお話をお願いしました。京都大学で霊長類の研究をする今井啓雄さん、埼玉県立がんセンター外科医師の風間伸介さん、丸紅アセアン会社調査部長としてシンガポール駐在の金子哲哉さん、それぞれの分野から、今までやり続けてきたことや新たに挑戦していることを、語っていただきました。個人的な感想

「ひととはなにか」をテーマに 3人の講師が登壇

になりますが、コロナ禍を通じて私たちを取り巻く環境が劇的に変わっていく中、立ち止まって考え直すことで見えてきた大事なことの共通点は、人としてのまっすぐな心であるような印象を感じました。「自反而縮雖千萬人吾往矣」の思いは今も変わらないのです。

第2部は、オンライン会議ツールのZoomを活用して複数の部屋に分かれてのグループ討論会の予定でしたが、操作の不慣れによりグループ討論会を行うことができず、3人の講師への質疑応答に内容を変更しました。参加の皆様のご協力のおかげで何とか最後まで開催することができました。ありがとうございました。

ハプニングありの開催でしたが、第1部は68人、第2部は30人ほど参加いただきました。ご参加の皆様には心より感謝申し上げます。そして、22年度に開催するイベントへのよいステップとなり、当時の経験が今につながりました。

22年度のミドル交流会は90回生が11

月にオンライン開催を準備中です。場所を問わずに参加できる気軽なイベントとして、また普段なかなか知り得ない話題にも触れられるとても良い機会として、多くの方のご参加をお待ちしています。(89回生 吉中宏子)

今年は90回生が 開催します!

第9回『ミドル交流会』
2022年11月26日(土)14時開催

第1部 医療講演会

健康診断の結果が気になる人もそうでない人も必視聴です。90回生の現役医師が糖尿病と脂肪肝について解説します。

●講演1「糖尿病を識る」
講師 古村雅利氏(90回生)
松葉町内科クリニック院長

●講演2「輝くことは、素晴らしきことかな? 脂肪肝ってどんな病気?」
講師 西瀬祥一氏(90回生)
東北中央病院健康管理科部長

第2部 グループ交流会

グループファシリテーター 90回生

同期会 活動紹介 69回生

人生100年、 これからだ!!

我々69回生『無垢の会』が、2002年の本部同窓会と東京清陵会の当番幹事を務めて以来、早20年、時の流れの速さに驚いています。当時、『東京清陵会だより13号』の編集委員会は、会報特集テーマ「清陵精神の継承と課題」の一環のイベントとして、清陵祭において「在校生・同窓生交流会2002」を開催しました。異なる世代間の交流によって、在校生が生きる力を強め、時代を切り開く展望を見出すことに貢献しようという目的のもとに実施したものです。

発端は、当時の学友会役員との懇談において、恒例となっていた文化講演会に代わり、在校生が全員参加できる企画を行いたいとの要望が出されたことです。テーマごとに分科会に分かれ、在校生と卒業生が交流するワークショップ形式で行うこととし、まず在校生に対するアンケートによってテーマを抽出、テーマのもとに69回生および他学年の卒業生も含め70名の研究者・専門家と在校生が17分科会に分かれて交流しました。その結果は、在校生によって分科会ごとに模造紙1枚にまとめられ、清陵祭の期間、展示されました。同窓生と在校生が一体で企画運営を行う前例のないイベントでした。当時の在校生に何らかのヒ

ントを与えることができたとしたら、目的は達成されたものと思います。

この様子は『東京清陵会だより13号』に掲載されると共に東京清陵会総会で報告され、団塊世代一期生の行動力を皆さんに印象付けたと思います。最近では職場見学やキャリア教育への講師派遣などの先輩との交流がありますが、このような大規模交流会イベントはこれまで後にも先にも行われていません。因みに、2002年当時の学友会の会長とイベント担当文化小委員長は女子生徒でした。既に女子が元気で男子を凌ぎ活躍していた時期だったのでしょうか。

『無垢の会』では、毎年、本部総会と東京清陵会総会の後に同期会を開いてきましたが、何年かに一度、本部と東京の合同で同期会を行いました。2012年には当番幹事10周年を記念して、蓼科の「滝の湯」にて女性陣の参加を得て、大々的に催しました。我々の学年は323名中女性が13名です。最近ではコロナ禍により、総会が延期やオンライン開催になり、2019年に本部総会と東京総会の後に行った同期会が、リアルとしては最後です。今年リアルで開催



2012年開催の同期会(「滝の湯」にて)

できるでしょうか？

同窓会役員への貢献としては、本部では2021年時点で、岩波寿亮君(副会長)、矢澤博君(事務局長)、小口憲司君および飯田幹夫君(常任幹事)、東京清陵会では平林千春君(事務局長2008-2010年、副会長2010-2012年)、功刀正行君(副会長2020-2022年)などが活躍しています。

今年度で69回生は75歳を迎え後期高齢者になります。事務局から、同窓会の魅力を高めるための「新しい三つの構想」の一つに「ライフシフト倶楽部」が提言されています。人生100年時代。これからの25年、最後のステージを健康に生き抜き、同窓会にも貢献していきたいと願っています。コロナ禍により社会生活・行動様式が変化し、またロシアによるウクライナ侵攻により世界秩序が大きく揺らいでいます。これから日本と世界がどのように変わっていくのか。この目で確かめたいと思います。

(69回生 比田井昌英)

2021-22年の清陵勉強会

表 2021年10月からの清陵勉強会の講師・講演一覧(2022年6月現在、敬称略)

講演日時	講師	入学回	役職・講演タイトル
第186回 2021年10月26日	八巻 和彦	69回	哲学者、早稲田大学名誉教授 「一哲学研究者が〈コロナ禍〉について考える」
第187回 2021年12月21日	原山 智	74回	信州大学名誉教授 「飛騨山脈の成り立ち」
第188回 2022年2月22日	林 聡一	86回	松澤宥生誕100年祭実行委員長 「松澤宥の芸術」
第189回 2022年4月26日	石埜三千穂	86回	SUWA-ANIMISM/スワニズム代表 御柱の新常識—最新の学問的知見が明かす「あなたの知らなかった御柱」
第190回 2022年6月28日	平島 安人	78回	自然エネルギーネットまつもと代表/自然エネルギー信州ネット理事 「SDGsの本質を知る」
第191回 2022年8月23日	宮坂 宥憲	106回	真言宗智山派 照光寺 「諏訪信仰と仏教—諏訪大社の神仏習合(仮)」

Zoom開催で

参加者が増加した清陵勉強会

Zoomを使用したりリモートでの清陵勉強会は、地方の方の参加が容易になっており、常時50人程度の方が参加しています。また、COVID-19終息後には従来のような勉強会および懇親会を開催する予定です。一方、講演はリモート配信も行う予定です。

●清陵勉強会東京清陵会ホームページ(<http://www.tokyoseiryokai.jp/>)で案内しています。

●勉強会参加希望者の方は一度参加するとメーリングリストに登録されますので、次回から勉強会からの案内メールが届きます。

東京清陵会

Information

東京清陵会の会員みなさんにさまざまな同窓生の情報をお届けします。



Architecture

藤森照信さんの茶室「五庵」
茅野に再建築

建築家・藤森照信(68回生・宮川中)さんが設計、東京の国立競技場に設置されていた茶室「五庵」が、茅野市宮川高部に再建築されました。高さ約6メートルあり、茶室の大きな窓からは八ヶ岳連峰が望めます。建物には地元産の木材も使われており、藤森さんは「高部に関心を持つきっかけにしてほしい」と願っています。「五庵」は、昨夏の東京五輪・パラリンピックを建築物やオブジェで盛り上げる企画の一環で建てられたものです。同区には、樹上の茶室「高過庵」や高部公民館など、藤森さんが設計した作品があり、「五庵」で7件目となります。



Gourmet

秋宮門前の和食店
「神楽」のコンセプトは
「花を添える」

諏訪大社秋宮門前にある和食店「二十四節氣 神楽」。店主は武居章彦(91回生・下諏訪中)さん。料亭や割烹店での日本料理の修業を活かし、信州の季節や風土を食から感じていただける料理を提供しています。店の内装は、同期の中村寿生(91回生・富士見高原中)さんが監修。最近はお弁当やテイクアウトも好評だそうです。また、神楽オリジナルの調味料「七福味噌」や「信州山椒オイル香ぐら」は、銀座NAGANOや公式ECサイトでも買うことができます。営業時間/ランチ11:30~14:00 定休日/水・木 夜はコース料理(完全予約制)。TEL 0266-78-8868。

Challenge

原付きバイクで日本一周の旅。
新井泰貴さん、京都でゴール

新井泰貴(122回生)さんが、約4か月かけ、原動機付き自転車で日本一周の旅に挑戦。母親の実家がある京都をスタート。近畿地方、北陸地方をまわり長野へ。さらに新潟からフェリーで北海道入りし、東北、関東、東海地方へ南下。中国・四国地方、九州地方をまわり、全国47都道府県全てを制覇、京都でゴールしました。夜は各地のキャンプ場などでテントを張って野宿、食事は自炊が基本。また、その土地でしか味わえない本場の料理は、少しぜいたくをして食べたそうです。「旅を通して家族や健康、食の大切さを身に染みて感じました」と話しています。



Book

日本経済新聞の書評にも紹介。
臼田さんの2冊目の新刊

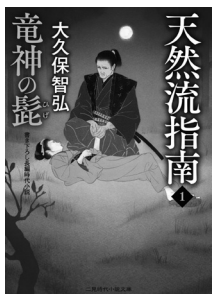
『宇宙を支配する「定数」 万有引力定数から光速、プランク定数まで』(ブルーバックス/1,100円)の著者は、臼田孝(84回生・辰野中)さん。万有引力定数=G、光速=c、プランク定数=h……など、根源的な自然法則に現れる「物理定数」。科学はいかにして「その値」にたどり着いたか? 万有引力の法則から相対性理論、量子力学まで、宇宙の成り立ちを説明する物理法則には、必ず「固有の値」=物理定数が登場する。物理定数とは何か? なぜ、一定の値をとるのか? そして、本当に「一定不変」か? 清陵高校時代に物理につまずいたあなたも、ぜひ一読を。



Book

大久保智弘さんが諏訪のことを書いた歴史小説

「江戸の人の視点から見た諏訪。諏訪のことが書きたかった」と語るのは、『天然流指南1 竜神の髭』(二見時代小説文庫/770円)の著者、歴史小説家の大久保智弘(69回生・宮川中)さん。江戸末期。内藤新宿に「天然流指南」と看板をかけた道場があった。道場主は酒楽齋、または面胴苦齋と名乗る正体不明の男一。道場主に血溜りの女が遺言した「リュウジンノヒゲ」とは? 諏訪大明神家子孫が治める藩の闘いに巻き込まれ……。天明の時代の江戸を舞台に、道場主の酒楽齋はじめてする「天然流」の活躍を描く新シリーズです。



Book

仙台在住の小説家
三沢陽一さんの新刊

『なぜ、そのウイスキーが死を招いたのか』(光文社文庫/748円)。仙台を舞台にした四つの事件。どの事件もウイスキーが重要なキーになっています。ウイスキーやカクテル、バーがお好きな方も、これから嗜んでみたい、という方にもぜひ読んで欲しいです。職人が心を込めて作ったお酒のように、じっくりと味わって読める小説になっています。「光文社文庫編集長の小口稔(89回生・岡谷南部中)さんにご尽力を頂き、『地味だけだよいのを』を合言葉にして書いたものです」とは、著者の三沢陽一(102回生・岡谷西部中)さん。読むとウイスキーが飲みたくなる!?



会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2021年度会費納入者ご芳名(2021年4月1日~2022年7月15日までに入金があった方)(敬称略)

64回	武井省吾	67回	岩間大和子	70回	垣内国光	75回	伊藤せい子	82回	米山 忠
64回	横内 稔	67回	土橋修平	70回	藤森行雄	75回	小平 聡	83回	松崎任宏
64回	宮坂 秀	67回	湯田英人	70回	唐木康正	76回	田中 修	83回	内川 昇
64回	花岡忠史	68回	宮坂松甫	70回	久保田功一	76回	金子次男	83回	岡本 徹
64回	新村 恩	68回	藤森照信	70回	高岸洋夫	76回	大村富範	83回	森 政宏
64回	川村洋二	68回	原田盛夫	70回	功刀明美	76回	前島秀戈	83回	両角信彦
64回	小林宇夫	68回	伊藤光員	70回	小口隆夫	76回	田沼唯士	83回	小平俊史
64回	金原恵介	68回	名取興平	71回	磯野康子	76回	石井和夫	83回	原 孝彦
64回	仁科眞爾	68回	古河 仁	71回	岩本達雄	76回	北澤道子	83回	中村美穂
64回	平林正稔	68回	宮坂 静	71回	北澤一保	76回	森田益弘	83回	小松 裕
64回	酒井捷夫	69回	茅野泰幸	71回	森 史朗	76回	関屋孝行	83回	伏見升成
65回	大川丈夫	69回	林 史章	71回	森さと子	76回	花岡博茂	83回	倉田重子
65回	松本禎之	69回	中村正治	71回	増澤博和	77回	水戸川博明	84回	島崎義都
65回	小松 功	69回	渡辺泰弘	71回	鎌倉芳信	77回	小口正行	84回	眞田明美
65回	春日芳夫	69回	真野恒夫	72回	小口邦雄	77回	岩本彰夫	84回	小海健治
65回	小林俊徳	69回	両角高三	72回	桑沢元孝	77回	春日敏彦	84回	飯田秀機
65回	関 紀雄	69回	藤森光彦	72回	笠原勇二	77回	金子恵子	84回	清水信次
65回	河西靖浩	69回	柳平克利	72回	林 健康	77回	渡辺恵祐	84回	赤羽俊昭
65回	金子充宏	69回	比田井昌英	72回	白鳥洋治	77回	田添珠実	84回	小口和彦
66回	生越万理子	69回	比田井和子	72回	御子柴均	77回	田中 守	84回	小口 高
66回	林 央	69回	山田計夫	72回	市村敏夫	77回	堀田康之	85回	小平秀一
66回	降幡賢一	69回	柳平三雄	73回	本田 稔	78回	東城清秀	86回	猪俣顕文
66回	河合三彦	69回	宮坂秀一	73回	濱 明廣	78回	両角寛文	86回	武田正利
66回	武居秀夫	69回	祖父江宏三	73回	五味信治	79回	油井幸雄	86回	青木裕子
66回	宮坂典子	69回	佐藤良昭	73回	両角 誠	79回	原田 健	87回	北沢 聖
66回	須田宏規	69回	武村光男	73回	原 秀男	79回	三井夏海	87回	浜野 崇
66回	堀川安久	69回	一ノ瀬輝海	73回	伊藤俊巻	79回	高橋則宏	88回	赤池一馬
66回	徳永忠次	69回	矢島正昭	73回	熊谷靖樹	79回	原田健太郎	88回	鮎澤 茂
66回	宮島忠之	69回	川村美枝子	73回	窪田 敏	79回	原田和明	88回	増沢浩一
66回	原 昭治	69回	濱 照彦	73回	マディーン啓子	79回	大平晋子	88回	村山光義
66回	五味 洋	69回	浜 初美	73回	原 大	80回	青沼裕之	89回	吉中宏子
66回	長田敏行	69回	八巻和彦	73回	和泉桂子	80回	工藤千秋	89回	田中千浩
66回	矢島弘子	69回	玉置守好	73回	浅川辰司	80回	宇津木マリ	89回	大野美江
67回	池上志な子	69回	功刀正行	73回	細田俊彰	80回	脇坂守一	89回	江島ゆり子
67回	武井勇治	69回	吉江森男	73回	山田文雄	80回	矢島 豪	90回	藤江美智
67回	樋口兼久	69回	小林正秀	74回	窪田 修	80回	上原成司	90回	古村雅利
67回	柳平直茂	69回	牛山隆夫	74回	北原嘉泰	80回	米澤あ子	90回	荒井 要
67回	守矢早苗	70回	一瀬益夫	74回	土屋彰男	80回	花岡友子	91回	小松文美
67回	丸茂義典	70回	小林金好	74回	金井良一	81回	浜 徹	92回	植松かおり
67回	竹村善雄	70回	米澤英樹	74回	岩本敏男	81回	松原雅子	92回	荻原和浩
67回	五味巻二	70回	平山哲三	74回	白鳥 清	81回	伊藤愛一	92回	西村和訓
67回	増沢和夫	70回	竹村善隆	74回	五味克成	82回	青木基浩	96回	濱 真由美
67回	宇佐美貴久	70回	土橋 務	75回	伊東晴俊	82回	北原 譲	96回	熊谷和則
67回	武田英太郎	70回	喜内静美	75回	宮下和彦	82回	三井哲志	97回	川崎 剛
67回	平林千義	70回	石田和夫	75回	柳沢治通	82回	河西龍彦	99回	荒木健太郎
67回	名取省三	70回	清水英俊	75回	飯田 明	82回	竹内雅彦	100回	永田郷雄
67回	小平 攻	70回	齊藤万比古	75回	北沢守一	82回	清水正己		
67回	細川正行	70回	増澤 進	75回	安木良術	82回	小野隆吾		

2021年度賛助金納入者ご芳名(2021年4月1日~2022年7月15日までに入金があった方)(敬称略)

38回	北原文雄	60回	宮澤政文	64回	武井省吾	69回	功刀正行	79回	原田 健
44回	茅野文明	60回	弓削裕和	64回	横内 稔	69回	吉江森男	79回	高橋則宏
46回	小泉和明	60回	窪田作栄	64回	新村 恩	69回	小林正秀	79回	原田健太郎
48回	鈴木 敝	61回	中山龍二	64回	小林宇夫	70回	一瀬益夫	79回	大平晋子
48回	宮坂勝郎	61回	川村昌平	65回	関 紀雄	70回	米澤英樹	80回	工藤千秋
49回	中村登紀夫	61回	鋤柄光則	65回	小林俊徳	70回	平山哲三	80回	矢島 豪
50回	五味陸俊	61回	佐伯三朗	65回	河西靖浩	70回	土橋 務	80回	上原成司
50回	鈴木仁郎	61回	早川次彦	65回	金子充宏	70回	藤森行雄	80回	米澤あ子
50回	井手千尋	61回	矢崎豊晴	66回	生越万理子	70回	久保田功一	82回	青木基浩
51回	小松袈伴	61回	藤澤玄雄	66回	林 央	71回	磯野康子	82回	北原 讓
51回	横川 端	61回	中村隆一	66回	河合三彦	71回	岩本達雄	82回	竹内雅彦
51回	両角正三	61回	堀内洋治	66回	武居秀夫	71回	増澤博和	82回	小野隆吾
51回	林 將雄	62回	小口照男	66回	宮島忠之	72回	市村敏夫	83回	松崎任宏
52回	笠原哲次	62回	小林洋二	66回	五味 洋	72回	林 健康	83回	内川 昇
52回	青木博國	62回	金子浩之	66回	長田敏行	73回	本田 稔	83回	岡本 徹
52回	白川太一	62回	藤森 汎	66回	矢島弘子	73回	原 秀男	83回	森 政宏
56回	渡部 清	62回	竹内洋平	67回	武井勇治	73回	伊藤俊巻	83回	小平俊史
56回	下平勝幸	63回	河西武彦	67回	柳平直茂	73回	熊谷靖樹	83回	中村美穂
56回	平塚一實	63回	尾澤弘久	67回	守矢早苗	73回	窪田 敏	83回	小松 裕
56回	河西啓二	63回	山田清重	67回	丸茂義典	73回	マディーン啓子	83回	伏見升成
56回	青木 亨	63回	亙理美代子	67回	宇佐美貴久	73回	原 大	83回	倉田重子
56回	土橋平治	63回	両角 實	67回	武田英太郎	73回	和泉桂子	84回	小海健治
56回	原 隆昭	63回	金井英雄	67回	平林千義	73回	浅川辰司	84回	赤羽俊昭
57回	今井恒夫	63回	齊藤 亨	67回	名取省三	73回	山田文雄	85回	小平秀一
57回	清水賢祐	63回	藤森宏一	67回	湯田英人	74回	北原嘉泰	86回	武田正利
57回	小林 浩	63回	小口哲二	68回	藤森照信	74回	岩本敏男	86回	青木裕子
57回	榎本平三	63回	荒木信行	68回	原田盛夫	74回	五味克成	88回	鮎澤 茂
57回	臼田 充	63回	米山迪男	68回	宮坂 静	76回	金子次男	90回	古村雅利
58回	茅野充男	63回	五味正得	69回	林史 章	76回	石井和夫	90回	荒井 要
58回	眞下テル	63回	河合信也	69回	真野恒夫	76回	森田益弘	91回	小松文美
59回	伊藤忠三	63回	蜜澤裕二	69回	比田井昌英	76回	関屋孝行	92回	荻原和浩
59回	小松 守	63回	岡本隆之	69回	比田井和子	77回	春日敏彦	100回	永田郷雄
59回	加賀美久高	63回	海野 肇	69回	祖父江宏三	77回	金子恵子		
59回	向山喜一	63回	小口明秀	69回	佐藤良昭	77回	田添珠実		
60回	小川浩史	63回	伊藤茂久	69回	武村光男	77回	堀田康之		
60回	高木正喜	63回	青木勇人	69回	矢島正昭	79回	油井幸雄		

事務局より連絡

1. 同窓会の基本単位は学年同期会、
学年幹事の皆様宜しくお願いします

おかげさまで大半の学年では学年幹事を一旦選出、それぞれの学年内の連絡役も担っていただいておりますが、残念ながら、総会・幹事会への出席、年会費納入などが見られない方も多いです。首都圏在住同窓生は5000人を超えています。所在把握者(会報が届く方)は半分強で、半分弱は不明・未登録です。自身の参加・納入とともに、同期の登録、行場参加を呼び掛けていただければと思います。

2. 委員会委員、新しい構想の世話人を募集します

とりまとめ幹事役は苦手だが、特定の役割なら貢献できそう、手伝えるという同窓生も多いと思います。委員会委員の見直しをします。①企画・財務、②組織(行事)・総会サポート、③会員情報管理(会員データベース・年会費納入管理など)、④広報

(SNS、HP、会報)の委員会があります。また新しい三つの構想、①人材バンク/母校連携、②同好会・研鑽会、③ライフシフト倶楽部も世話人を募集しています。いずれも事務局メンバーと一緒に担っていただきますので、安心して、可能な役割で参画ください。

3. 次世代ワーキンググループがスタートします

2013年度からスタートした活性化ワーキンググループも主たるメンバー(82・83・84回生)が還暦を迎えることから役目を終え、新たな発想で運営に提言いただき、次世代ワーキンググループがスタートします。86・87・88・89回生にコアを担っていただきますが、90・100・110・120回生世代も我こそはと思う方はぜひ参画ください。

★1、2、3いずれも事務局アドレス
tokyoseiryokai2017@gmail.com

に氏名・回生・エントリーする役割、アドレス・連絡携帯を記載してメールください。お待ちしております。

東京清陵会の現況 データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2022年5月末現在)。

1. 東京清陵会会員の定義 (1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申し出者を除く)。(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。 2. 会員現勢 総数2,696名(住所不明者1,416名を除く) (1) 都県別会員数 東京都1,229名、神奈川県555名、千葉県338名、埼玉県330名、茨城県54名、群馬県21名、栃木県21名、その他148名 (2) 年次別会員数(下表) (3) 年次別会費納入者数(別表)

別表 年次別会員数と会費納入状況(2022年3月31日現在)

Table with 5 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows 1-60.

Table with 5 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows 61-81.

Table with 5 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows 82-102.

Table with 5 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. Rows 103-120, Total.

注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3) 会費:前会計期(2021.4~2022.5)会費あるいは賛助金納入者の人数
会費免除会員(~62回生、および118回生~)の人数 1,078名

第1号議案(2) 2021年度決算(案)

収支計算書(案) 自2021年4月1日~至2022年3月31日 (単位:円)

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows 1-6.

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Rows 1-10.

寄付金:本部より支部活動助成金として50,000円

貸借対照表(案) 2022年3月31日現在 (単位:円)

Table with 3 columns: 科目, 金額. Rows I 資産の部, II 負債の部.

以上監査の結果、正確なものと認めます。

令和4年6月9日 監査幹事 青木基浩 (印)

第2号議案(2)

2022年度収支予算(案) 自2022年4月1日~至2023年3月31日(単位:円)

支出の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows 1-10.

収入の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows 1-6.

(注)2022年度予算の収支差額は、360,800円の欠損金となります。

第3号議案 役員改選(案) (任期 2022年11月~2024年10月)

会長	両角 寛文 (78回生)※	幹事	小泉 和明 (46回生)	幹事	波賀 かおり (86回生)
副会長	功刀 正行 (69回生)	幹事	宮坂 勝郎 (48回生)	幹事	北澤 聖 (87回生)
副会長	有賀 一温 (75回生)※	幹事	上原 秀秋 (49回生)	幹事	須藤 美香里 (88回生)
副会長	米澤 あ子 (80回生)	幹事	松木 庄師 (49回生)	幹事	藤森 裕基 (88回生)
会計幹事	小海 健治 (84回生)	幹事	笠原 哲次 (52・55回生)	幹事	両角 はるか (89回生)
監査幹事	青木 基浩 (82回生)	幹事	今井 恒夫 (57回生)	幹事	古村 雅利 (90回生)
事務局次長	北原 譲 (82回生)	幹事	五味 英明 (58回生)	幹事	太田 美和 (91回生)
事務局次長	石埜 穂高 (78回生)※	幹事	矢崎 悦郎 (59回生)	幹事	小口 一貴 (92回生)
事務局次長	岡本 徹 (83回生)	幹事	篠 健 (60回生)	幹事	仲田 優 (92回生)
事務局次長	森 政宏 (83回生)	幹事	宮澤 政文 (60回生)	幹事	溝口 浩司 (92回生)
事務局次長	赤羽 俊昭 (84回生)	幹事	早川 次彦 (61回生)	幹事	松本 悦明 (93回生)
事務局次長	清水 信次 (84回生)	幹事	中谷 範行 (62回生)	幹事	原 豊 (94回生)
事務局次長	細田 明 (86回生)※	幹事	藤森 汎 (62回生)	幹事	宮下 正臣 (94回生)
事務局次長	佐藤 美智子 (88回生)	幹事	垣内 直 (64回生)	幹事	田中 聡久 (96回生)
事務局次長	荒木 健太郎 (99回生)	幹事	祖父江 宏三 (64回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)
顧問	小川 勝嗣 (59回生)	幹事	金子 充宏 (65回生)	幹事	森 英一 (98回生)
顧問	藤森 宏一 (63回生)	幹事	林 央 (66回生)	幹事	小口 博正 (100回生)
顧問	生越 万理子 (66回生)	幹事	小平 攻 (67回生)	幹事	岡 真也 (101回生)
顧問	平林 千義 (67回生)	幹事	小林 盛男 (68回生)	幹事	福島 洋一 (102回生)
顧問	原 大 (73回生)※	幹事	比田井 昌英 (69回生)	幹事	三宅 大作 (104回生)
常任幹事	鈴木 徹 (48回生)	幹事	久保田 功一 (70回生)	幹事	福島 理雄 (105回生)
常任幹事	長田 宏子 (62回生)	幹事	北澤 一保 (71回生)	幹事	小池 伸 (106回生)
常任幹事	米山 迪男 (63回生)	幹事	市村 敏夫 (72回生)	幹事	間宮 薫 (107回生)
常任幹事	守矢 早苗 (67回生)	幹事	原 秀男 (73回生)	幹事	三井 大樹 (107回生)
常任幹事	春山 明哲 (68回生)	幹事	両角 誠 (73回生)	幹事	久納 多恵 (108回生)
常任幹事	林 健康 (72回生)	幹事	北原 嘉泰 (74回生)	幹事	山川 裕矢 (109回生)
常任幹事	窪田 敏 (73回生)	幹事	小平 聡 (75回生)	幹事	小口 七海 (109回生)
常任幹事	マディーン啓子 (73回生)	幹事	金子 次男 (76回生)	幹事	小林 雄一 (109回生)
常任幹事	伊藤 せい子 (75回生)	幹事	宮坂 英二 (77回生)	幹事	柳澤 広識 (110回生)
常任幹事	後調 正則 (76回生)	幹事	東城 清秀 (78回生)	幹事	山田 智衣 (110回生)
常任幹事	田中 達也 (81回生)	幹事	宮原 佳彦 (78回生)	幹事	中村 太軌 (111回生)
常任幹事	矢崎 理恵 (81回生)	幹事	原田 健 (79回生)	幹事	田中 正明 (112回生)
常任幹事	伊東 和夫 (85回生)	幹事	丸山 重久 (79回生)	幹事	北原 智啓 (113回生)
常任幹事	武田 正利 (86回生)※	幹事	藤森 正樹 (80回生)	幹事	林 毅 (114回生)
常任幹事	蟹澤 啓明 (87回生)	幹事	脇坂 守一 (80回生)	幹事	平林 怜 (115回生)
常任幹事	吉中 宏子 (89回生)	幹事	五味 正信 (81回生)	幹事	石城 陽太 (116回生)
常任幹事	藤森 裕司 (91回生)	幹事	安川 昌昭 (81回生)	幹事	太田 恵輔 (116回生)
常任幹事	斎藤 理恵 (97回生)	幹事	小野 隆吾 (82回生)※	幹事	笠原 千鶴 (116回生)
常任幹事	勝 美穂 (110回生)	幹事	篠原 誠一 (82回生)	幹事	秀島 真奈 (117回生)
常任幹事	帯川 恵輔 (118回生)※	幹事	竹内 雅彦 (82回生)	幹事	茅野 理子 (118回生)
		幹事	藤森 薫 (82回生)	幹事	宮坂 慶佑 (118回生)
		幹事	山田 実 (82回生)	幹事	小野 峻 (119回生)
		幹事	小松 裕 (83回生)	幹事	平林 蒼音 (119回生)
		幹事	飯田 秀機 (84回生)	幹事	油井 恭介 (119回生)
		幹事	大和田 敏子 (84回生)	幹事	岡崎 佑樹 (120回生)
		幹事	矢崎 治孝 (84回生)	幹事	中山 茉優 (120回生)
		幹事	加藤 正治 (86回生)	幹事	今井 裕二 (121回生)

※新任 2022年10月総会(会報書面開催)承認により、11月から就任予定、なお、連絡役も幹事として表記



諏訪と共に成長します

株式会社
世田谷自然食品



2021年度 事業報告 第1号議案(1)

- 2021
- 4.20 第1回事務局会議 Zoom開催
 - 4.27 第183回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 武居智久(78回生)
 - 5.18 常任幹事会 Zoom開催
 - 6.22 第184回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 五味克成(74回生)
 - 7.6 学年幹事会 Zoom開催
 - 8.15 会報「東京清陵会だより」第32号発行 発送3000部
 - 8.24 第185回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 岩本敏男(78回生)
 - 10.3 第55回定期総会 議事のみ会報での書面開催し、議案は可決
 - 10.26 第186回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 八巻和彦(69回生)
 - 11.9 第2回事務局会議 Zoom開催
 - 11.27 第8回ミドル交流会(開催幹事89回生 Zoom開催 参加68名)
 - 12.21 第187回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 原山智(74回生)
 - 12.25 女子部事務局ミーティング(Zoom開催 参加3名)

- 2022
- 2.23 第188回清陵勉強会 Zoom開催 講師: 林聡一(86回生)

2022年度 事業計画 第2号議案(1)

1. 第56回総会・交流会 10月2日(日曜) ハイブリッド開催 当番幹事89回生
2. 会報「東京清陵会だより」第33号の発行 8月上旬
3. 事務局会議(4・11月、Zoom開催)
4. 常任幹事会(5月)・幹事会(6月)いずれもZoom開催予定
5. 第7回働くことを考える若手の会の開催
6. 第9回ミドル交流会の開催 (11月26日土曜 Zoom開催予定)
7. 第8回女子会の開催(上期予定)
8. 新卒歓迎・学生交流会
9. 清陵勉強会の開催(原則偶数月の第4火曜日)
10. 事務局・委員会制度の整備
11. 会員情報管理の高度化・効率化
12. 東京清陵会ホームページの拡充、SNS利用の拡大
13. 懇親ゴルフ会の開催(春は中止、秋は開催予定)
14. 本部同窓会・南信同窓連・東京同窓連活動への参加
15. 母校・生徒との連携・交流の拡充(講師派遣・職場見学協力・清陵祭への参加等)
16. その他必要とする事業

※コロナウイルス感染状況で開催できない場合もあります。ホームページでお知らせします。

編集後記

「東京清陵会だより」第33号をお届けいたします。

今年は、幹事である89回生の方針で、諏訪の本部会報と東京の会報を連動させ、共通のテーマで特集を構成するようにいたしました。「ひととはなにか」——混沌として先の見えない今こそ原点に立ち返り、かつてのゴタツ小僧・娘たちが清陵というかけがえのない学び舎で自分を形成し、歩んできた日々を振り返ることで、自らが得たものを未来にどう生かしていけるのか。それぞれの原稿から多くのヒントを得ることができるのではないのでしょうか。一方では、123回生のバンド「あるくとーふ」のような、新しい世代の瑞々しい息吹を伝えるインタビューもあります。彼らのような存在がきっと次の時代を切り開くのだろうと、取材をした我々同様、読まれた方も大いに刺激を受けるのではないかと思います。

最後に、お忙しい中、原稿を寄せていただいたみなさま、北原事務局長をはじめとする東京同窓会事務局の先輩方、実際の制作をお願いしましたスタジオパラムの清水様、幅広く協力をしてくれた89回生ほかの皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。

(編集担当/89回生 小口稔 宮坂賢一 両角はるか 吉中宏子)

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	回	逝去年月日
藤森 一平	43	2021/8/14
小松 正弘	48	2021/8/29
笠原 俊彦	49	2020
小林 恩	49	2021/11/12
岩波 貞夫	50	2020/10/8
林 壮司	50	2019
平井 庸一	50	2021/12/7
宮坂 義彦	50	2020/8/29
永田 昭七郎	51	2016/7/29
守矢 公平	51	2016/12/31
今井 基夫	52	2020/11/30
長坂 昭彦	52	2021/9/18
牛山 一	55	2020/7/5
岩波 邦治	56	2020/6/28
原田 廣一	56	2020/7/27
平林 信之	56	2021/9/18
小林 俊光	57	2021/6/7
白田 充	57	2020/9/20
山口 宗彦	58	2020/4/1
飯田 力也	59	2020/12/23
河西 健一	61	2021/9/24
矢島 辰一	62	2021/7/12
日向 明房	63	2021/6
須沢 允晴	63	2021/10/8
徳留 淳朔	63	2021/8/25
進藤 瑞穂	65	2022/1/29
片倉 慎介	66	2014
笹岡 正俊	66	2021/11/18
小沢 進	67	2020/8/15
春日 宗夫	69	2021/6/14
木下 健治	69	2021/10/28
宮下 安彦	69	2022/1/21
有井 行夫	71	2018
名取 芳夫	71	2022/3/21
矢嶋 紀昭	72	2021/12/22
吉川 弘	74	2021/5/31
平出 貴男	79	2021/1/11

●事務局にご連絡をいただいた方(本部会報第48号含む)を掲載。

今回より郵便物のご案内はございません。メールでお申し込みください

第33回ゴルフコンペのご案内

- 会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。
- 日時:10月15日(土) 8時20分集合 8時50分スタート
 - 場所:紫カントリークラブ あやめ36 東コース
(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分)
 - プレー代:約19,000円(食事付) 会費:3,000円
参加希望の方は、清水(84回生) shimizu@palam.jp まで。
住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください。
 - 幹事=青木基浩(82回生)、小海健治(84回生)



5月29日に行われた東京清陵会有志のゴルフ(相模湖カントリークラブ)

「東京清陵会」ゴルフ同好会

